

大学生の労働組合観について

—アンケート調査から見えるもの—

労働総研・若手研究者研究会

はじめに—調査の目的

近年、働いていても十分な所得が得られず貧困に陥ってしまうワーキングプアや一般の住居に住めずネットカフェ等で暮らす「ネットカフェ難民」が注目され、2008年の秋以降は製造業を中心に「派遣切り」が横行するなど、働く人たちの置かれている状況はますます悪化してきている。

こうしたなかで、労働組合をめぐる状況は少しずつ変わりつつある。派遣労働者を組織する労働組合が派遣労働者の労働条件を改善したり、不払い賃金や管理費等の名目でピンハネされていた賃金を取り戻したりする姿がメディアで報道されるようになり、労働組合に対する人々の認識が変わりつつある。また、そうした組合活動の担い手のなかには、他の市民団体とも連携しながら新しい発想で活動の輪を広げる若者たちが少なからず含まれている。

労働運動総合研究所（労働総研）が2005年に全国労働組合総連合（全労連）と共同で実施した『「労働組合の活動実態と課題と展望」調査』では、組合未加入の労働者に対して労働組合への加入意向について聞いている。それによると、「すぐにでも加入したい」が30歳代で1.1%、40歳代で1.7%であるのに対して、20歳代は7.2%となっており、意識の変化の可能性を示唆するものとなっている。労働組合の若手組合員のあいだでも、若い世代の組合活動に対する意識の高さは実感されているところで、組合活動の担い手として将来が期待される人材が育ちつつある。とはいえ、組合活動に積極的に関与するのは依然として若者の一部にとどまっている。

このような状況下で、組織化を進めていくにはどうしたらいいか、どのようにして社会問題化できるかということが、労働組合運動の課題となっている。

こうした認識のもと、本研究会では、労働組合運動の将来を担うことが期待される若者たちが労働組合に対してどのような認識を持っているのか、とりわけこれまで調査がなされてこなかった学生がどのような労働組合観をもっているのかについて明らかにするため、大学生を対象としたアンケート調査を実施することとした。

1. 調査の概要

(1) 調査方法について

調査は2回に分けて実施した。第1回調査では、調査対象者が、首都圏の私立大学および静岡、群馬、新潟の国公立大学および短期大学の1～4年の学生で、研究会メンバーや調査の主旨に賛同した大学教員の講義を受講している学生またはゼミ生である。したがって、一般の学生に比べて組合に関する知識を授業等で学習している割合が高い可能性があることに留意されたい。調査方法は、授業後に別紙の調査票を配布し、その場で回答してもらい、その場で回収した。学生に対しては、回答の内容は成績等には関係ないこと、個人が特定されるような形で集計することはないことを周知して実施したが、出席を兼ねて記名式にしたケースもある。また、実施時期は1年間の講義を終える1月から2月であった。これらの点は、回答結果に一定のバイアスを与えている可能性がある。

第2回調査では、調査対象者が、首都圏の私立大学および新潟、静岡の国公立大学および短

期大学において2009年4月に入学した新入生である。調査方法は、第1回調査と同様に調査票による回答のほかに、PCや携帯電話によるWeb入力の方法を用いた。学生に対しては、回答の内容は成績等には関係ないこと、個人が特定されるような形で集計することはないことを周知したのは前回と同様である。

調査内容は、学生に気軽に回答してもらうために、A4用紙1枚に収まるよう設問を絞り込み、労働組合を知っているかどうか、組合をどのように知ったか、組合に対して（組合を知らない学生も含めて）どのようなイメージを持っているか、将来の加入意向はあるかどうかの4点とした。第2回調査では、アルバイト経験の有無についても聞いている。また、いくつかの設問で選択肢を若干変更した。

(2) 回答者について

第1回調査の回答者数は610人、うち女性が408人（66.9%）、男性が198人（32.5%）、不明が4人（0.7%）であった。学年別にみると、1年生が188人、2年生が314人、3年生が70人、4年生が32人、不明が6人であり、1、2年生が多かった。1、2年生には短期大学生が多く含まれており、その多くは医療・福祉系学部の女性である。この点は、のちに性別、学年別の回答について検討する際に注意する必要がある。第2回調査の回答者数は593人、うち女性が308人（51.9%）、男性が251人（42.3%）、不明が34人（5.7%）であった。また、アルバイト経験があるかどうかを聞いたところ、「ある」と答えたのが42.7%、「ない」が51.4%、無回答が5.9%で、「ない」がやや多かった。

以下、はじめに単純集計について概観した上で、性別、組合に関する知識の有無別、組合への加入意向別、学年別、アルバイトの経験の有無別等の回答結果についてみていくことにしよう。

2. 調査結果の概要

(1) 労働組合の認知状況

～学生の多くはマスメディアや学校教育を通じて知識を得ている～

まず、「労働組合」とはどのような組織かを知っているかどうかを聞いた。第1回調査では「聞いたことはある」が最も多く66.9%、次に「知っている」が25.7%、「知らない」が7.0%であった。この結果は第2回調査でもほぼ同じで、「聞いたことはある」67.8%、「知っている」22.9%、「知らない」9.3%であった。

組合について「知っている」または「聞いたことはある」と回答した学生にどこで知ったかを聞いたところ、第1回調査では、最も多かったのが「テレビ・ラジオのニュース等」で68.1%、次に「大学の授業」が43.1%、「新聞・雑誌」33.7%、「中学・高校の授業」30.7%、「家族・親戚から聞いた」が16.0%と続いた。第2回調査では、選択肢に「身近に労働組合に加入している人がいる」「労働組合の宣伝や行動を見た」を付け加えて聞いた。そこで最も多かったのが「中学・高校の授業」62.2%、「テレビ・ラジオのニュース等」58.0%、「新聞・雑誌」29.5%、「家族・親戚から聞いた」が9.9%と続く。選択肢を追加した「組合の宣伝や活動を見た」は6.3%、「身近に組合に加入している人がいる」は2.7%であった。テレビ・ラジオや新聞・雑誌といったマスメディアおよび学校教育の影響の

表1 調査の概略

	調査時期	調査対象	回答者	女性	男性	NA
第1回	2009年1～2月	1～4年生	610 100.0	408 66.9	198 32.5	4 0.7
第2回	2009年4月	新入生	593 100.0	308 51.9	251 42.3	34 5.7

大学生の労働組合観について—アンケート調査から見えるもの—

大きさが改めて確認できた。

第2回調査は、対象が新入生なので「大学の授業」はわずか1.9%であったが、「中学・高校の授業」は6割強で最も多かった。中学・高校の科目では、両調査ともに「現代社会」「公民／政治経済」が多く、次いで「世界史」など、社会科系の科目が多かった。このことは、近年、進学コースによって社会科系科目を学習しない学生がいることを考えると、組合に関する情報に接する機会が、入学する時点で学部（専攻）によって大きな差をもたらす可能性があることを予想させる。大学での講義については、「労働経済論」「社会政策論」などの労働系の科目が多かったが、総合講座や生活経済のような特別な科目をあげる学生もあった。

また、家族・親族から聞いたという回答も1割から2割弱あり、無視できない影響を与えているものと思われる。

図1A 問1.「労働組合」とはどのような組織か知っていますか？（第1回調査）

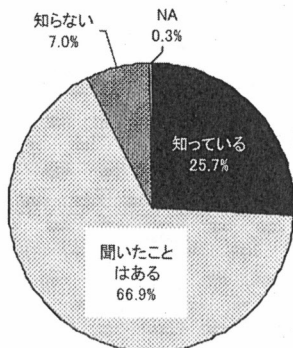
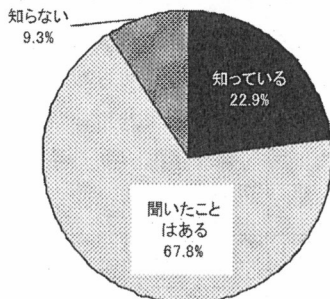


図1B 問1.「労働組合」とはどのような組織か知っていますか？（第2回調査）



(2) 労働組合に対するイメージ ～半数から8割が肯定的評価～

次に、組合のイメージについていくつかのキーワードをあげ、「分からない」ないしは「そう思う」から「そう思わない」までの4段階で評価を聞いた。質問内容は、組合に対するマイナスのキーワードとして「ダサい」「怖い」「迷惑だ」「面倒くさそう」という4点について、プラスのキーワードとして「頼もしい」「必要だ」「役に立つ」という3点について、さらに「自分には関係ない」というキーワードを加えた、計8項目である。

これについては、第1回調査と第2回調査でほぼ同じ傾向がみられたので、第2回調査の結果についてみていく。その上で、第1回と第2回の特徴的な相違点について触れたい。

「ダサい」かどうかについては、「そう思わない」が最も多く49.9%、次に「あまりそう思わない」が29.7%で、約8割（79.6%）が組合を「ダサい」とは思っていなかった。

「怖い」かどうかについては、やはり「そう思わない」が最も多く45.4%、「あまりそう思わない」が27.8%で、7割以上（73.2%）が組合を「怖い」と思っていなかった。とはいえ、「ダサい」に比べると「そう思う」「ややそう思う」の割合がやや多く、1割（12.3%）に達している点は注目しておきたい。

「迷惑だ」については、「そう思わない」が49.2%、「あまりそう思わない」が28.3%で、約8割（77.5%）は組合が迷惑な存在とは思っていなかった。

「面倒くさそう」については、「そう思わない」が18.4%、「あまりそう思わない」が22.1%で、「面倒くさそう」と思っていないのが約4割（40.5%）であったのに対して、「ややそう思う」が35.6%、「そう思う」が10.1%で、4割以上（45.7%）が「面倒くさそう」だと思っていた。

プラスのイメージについてしてみると、「頼も

しい」と思っているかどうかについては、「そう思う」が約1割(7.9%)、「ややそう思う」が約3割(31.4%)で、4割近くが「頼もしい」と思っている一方、「あまりそう思わない」は29.5%、「そう思わない」が9.1%で、「頼もしい」と思わない学生も4割(38.6%)ほどであった。また、「分からない」も約2割(21.4%)であった。

「必要だ」と思うかどうかは、「そう思う」が3割(27.7%)、「ややそう思う」が4割(40.8%)で、組合を「必要だ」と思っているのが約7割(68.5%)であった。ただし、「分からない」も19.1%あった。

「役に立つ」と思うかどうかは、「そう思う」が13.8%、「ややそう思う」が39.6%で、やはり半数以上は組合が「役に立つ」と思っていた。ただし、「分からない」が23.9%で最も多かった。

「自分には関係ない」という点については、「あまりそう思わない」が3割(29.5%)、「そう思わない」が2割(19.1%)で、5割弱(48.6%)が自分にも関係あると思っていた。これに対して「ややそう思う」は24.5%、「そう思う」は7.9%にとどまった。「分からない」は18.4%であった。

以上のように、回答した学生は全体的に組合に対して否定的な評価をする学生は少なく、半数近くは肯定的な評価をしており、多くが自分にとって「必要」であり、「関係ある」と思っていた。また、組合についてよく分からないとしたのは2割前後であった。

第1回調査と比べた第2回調査の特徴として、マイナス・イメージについては、「面倒くさそう」が「ややそう思う」で10ポイント多く、「あまりそう思わない」「そう思わない」あわせて8ポイント少ない。プラス・イメージについては「必要だ」が「ややそう思う」で10ポイントほど多く、「あまりそう思わない」「そう思わない」あわせて10ポイント少ない。また、「自分には関係ない」が「そう思う」「ややそう思う」あわせて20ポイントほど多く、「そう思わない」が15ポイントほど少ない。このように新入生では「面

倒くさそう」「自分には関係ない」が多少高くなっているが、「必要だ」と思っている学生も高くなっている。

(3) 労働組合への加入意向

～加入に前向きな回答は、第1回7割、第2回4割～

加入意向については、第1回調査では選択肢を「ぜひ加入したい」「必要に迫られたら加入したい」「できれば加入したくない」「絶対に加入したくない」「その他」の5つにしていたが、「その他」の回答が多かったため、第2回調査では「その他」を削除し、「勧められたら加入したい」「分からない」という項目を付け加えた。

第1回調査では、「ぜひ加入したい」が12.8%、「必要に迫られたら加入したい」が54.9%で、両者を合計した「加入に前向き」な回答は約7割であった。第2回調査では「ぜひ加入したい」が3.2%、「勧められたら加入したい」が11.5%、「必要に迫られたら加入したい」が22.6%で、加入に前向きな回答は約4割にとどまった。その分、第2回調査では「分からない」が45.2%と半数近くを占めた。第1回調査で「分からない」に相当する「その他」は15.1%であった。この差が選択肢の違いによるものなのか、調査対象者の違いによるものなのかは明らかではない。

「加入に前向き」な回答をした理由としては、「自分たち(労働者)の権利を守りたいから」「労働をする人間としての権利は必ず守られるべきであると思うし、守るために自分から行動するのが大切だから」という労働者の権利意識、「団結して対応したい」「不利な条件を突きつけられても対抗できる」「会社の悪いところとか一人ではなく皆で抗議できる」「組合として抗議した方が説得力がある」「団体で交渉すれば強く、頼りになる」「労働条件などの改善に向けて団結していけそう」など団結して使用者と交渉していくこと、その必要性を挙げる学生がいた。加え

大学生の労働組合観について—アンケート調査から見えるもの—

図2 A 問3.「労働組合」に対するあなたのイメージは？(第1回調査)

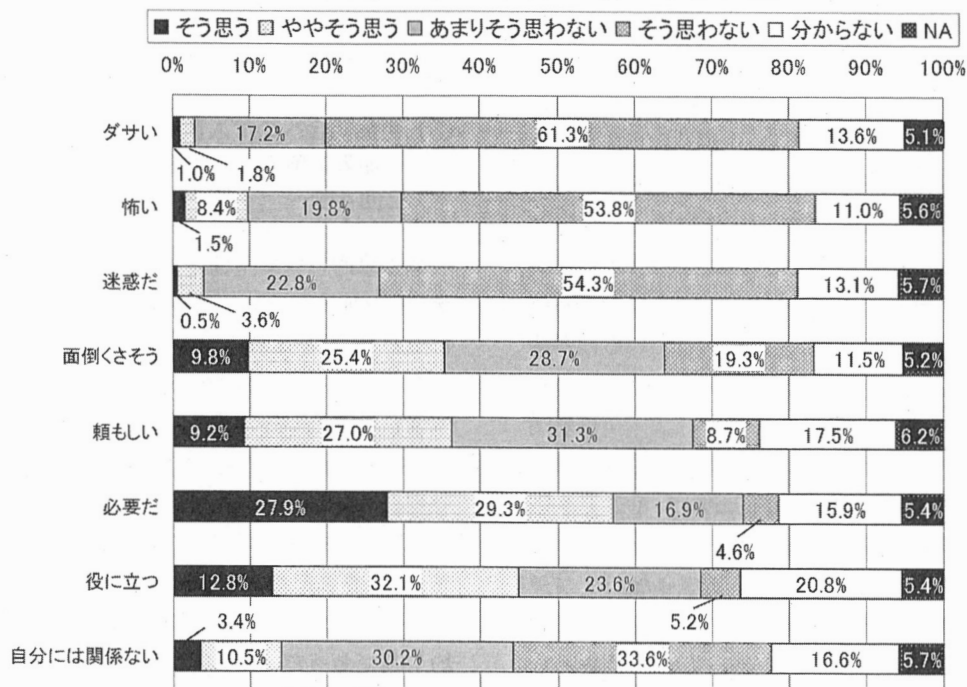
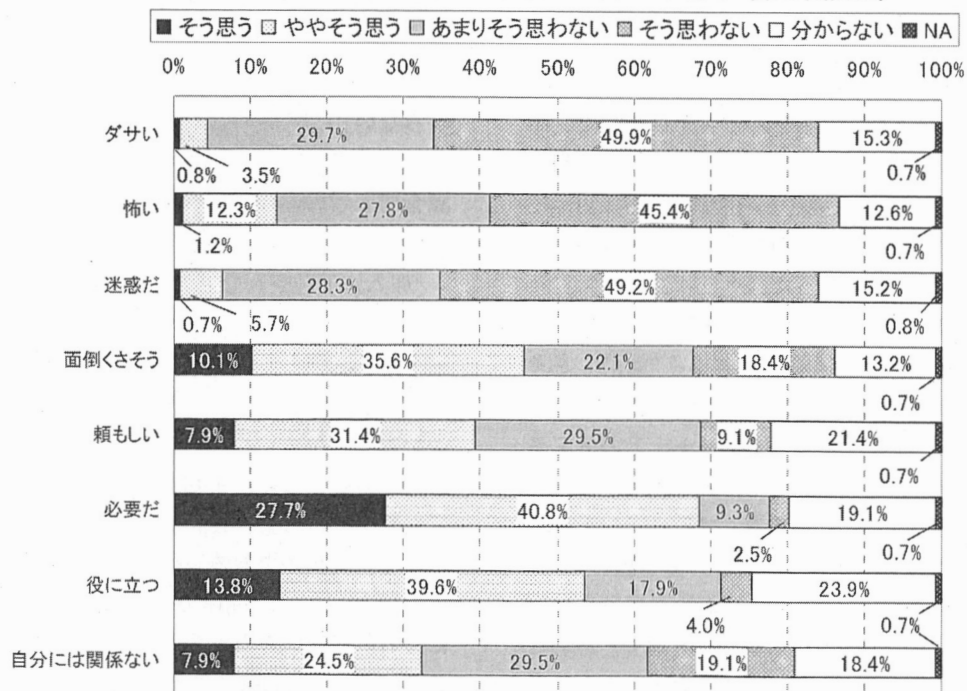


図2 B 問3.「労働組合」に対するあなたのイメージは？(第2回調査)



て「助け合える組織が必要だと思うから」「就職して自分が不利な立場に置かれたとき、個人だけでは解決できないと思うから」など連帯の必要性を労働組合に加入する理由として挙げている学生もいた。また、「近頃『派遣切り』や『賃金に対する不満』など世界恐慌の余波による諸問題において労働者の団結が必要だと思ったから」という最近の雇用状況を意識して加入意向につなげている学生もいた。

その一方で、「加入に後ろ向き」な回答（「できれば加入したくない」「絶対に加入したくない」）は、第1回調査では12.5%、第2回調査で

は16.8%であった。特に、「絶対に加入したくない」という回答が第2回調査で6.9%（第1回0.2%）になっている。その8割が「よく知らないから」という理由を挙げていて、否定的な意見としては、「面倒そうだから」という理由がみられた。よく知らないこと、面倒そうというイメージも「後ろ向き」な意見につながっている面がある。

3. 性別の実態

(1) 労働組合の認知状況

～認知度は男性のほうがやや高い～

次に、性別の労働組合観をみていこう。第1回調査では、労働組合について、「知っている」は男性33.3%、女性22.1%、「聞いたことはある」は男性57.1%、女性71.6%であった。

組合をどこで知ったかについては、男女ともに「テレビ・ラジオのニュース等」の割合が最も高く6割を超えた。また、授業については、「中学・高校の授業」が男性では割合が高いのに対して（男性＝36.9%、女性＝28.0%）、「大学の授業」は逆に女性の方が高い割合となっていた（男性＝35.8%、女性＝46.8%）。さらに、「インターネット」が情報源となっているのは、男性17.3%、女性5.0%で、ここにも比較的大きな男女差がみられた。

第2回調査では、労働組合について、「知っている」は男性28.3%、女性17.9%、「聞いたことはある」は男性60.2%、女性74.4%であった。これに対して「知らない」は、男性11.6%、女性7.8%であった。

組合をどこで知ったかについては、男女ともに「テレビ・ラジオのニュース等」と「中学・高校の授業」が主な情報源となっている。特に、「中学・高校の授業」が男性56.6%、女性66.4%となっており、比較的大きな男女差がみられた。

2回の調査を総合すると、男性の方が組合について「知っている」という結果が得られた。

図3 A 問4. 就職後に「労働組合」へ加入したいと思いますか？（第1回調査）

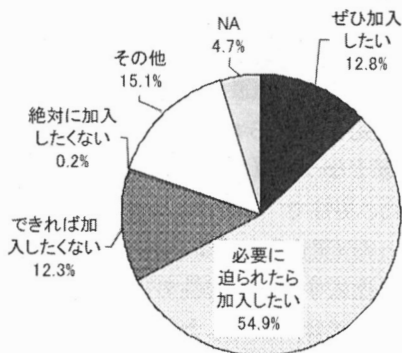
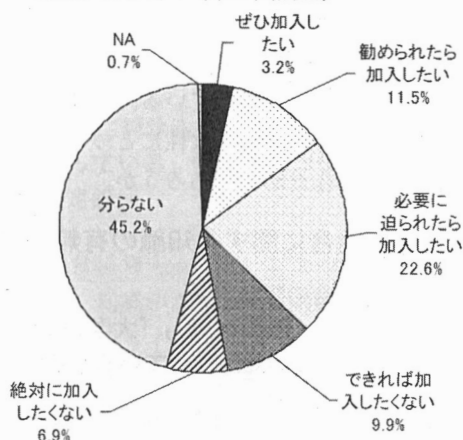


図3 B 問4. 就職後に「労働組合」へ加入したいと思いますか？（第2回調査）



大学生の労働組合観について—アンケート調査から見えるもの—

(2) 労働組合に対するイメージ ～「分からない」が多い女性～

第1回調査では、「ダサイ」については、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合が、男性4.0%、女性2.2%であった。男女ともに大部分が「ダサイ」とは思っていないかった。「怖い」についても、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合が男性11.1%、女性9.3%であり、反対に約8割は組合＝「怖い」というイメージを持っていなかった。ところが、「迷惑だ」については、「そう思わない」が男性43.9%、女性59.6%となっており、男女差がみられた。「面倒くさそう」についても、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた否定的な評価をする割合が、男性46.4%、女性29.9%と差がみられた。「頼もしい」「必要」「役に立つ」等のプラス項目については、女性でいずれも「分からない」の割合が2割を超え、男性と比較して割合が高くなっているのが特徴であった。「自分には関係ない」については、そのように思っている割合（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）が男性で21.2%、女性で10.5%となっており、大きな男女差がみられた。

第2回調査では、「ダサイ」については、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合が、男性5.6%、女性3.2%であった。「怖い」や「迷惑だ」についても、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合が男性のほうでやや高くなっている。多くのマイナス項目で男性の方が否定的な評価をしているなか、「面倒くさそう」については、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合が、男性42.7%、女性48.7%と女性のほうで高くなった。「頼もしい」については、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合が、男性37.9%、女性41.2%であった。「必要だ」や「役に立つ」等の他のプラス項目についても、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合が男性より女性のほうでやや高くなった。マイナス、プラスを問わず、組合につ

いてのイメージを問うた設問で、いずれも女性の方が「分からない」の割合が高くなっているのが特徴であった。

2回の調査を総合すると、女性の方が「分からない」という意見が多かった。意見を保留しているだけなのか、それとも組合に対する無関心に起因するものなのか、さらに細かい分析が必要であろう。

(3) 労働組合への加入意向 ～男性の加入意向に違いあり～

第1回調査では、就職後の組合への加入意向については、「ぜひ加入したい」の割合が男性のほうで高く（男性＝16.7%、女性＝11.0%）、「できれば加入したくない」の割合も男性で高かった（男性＝16.2%、女性＝10.5%）。また、「その他」の回答は女性で多くなっていた（男性＝9.6%、女性＝17.9%）。

第2回調査では、就職後の組合への加入意向については、「必要に迫られたら加入したい」で男女差が大きくなった（男性＝15.5%、女性＝26.6%）。また、男性で「分からない」と回答する割合が高かった（男性＝57.0%、女性＝38.3%）。2回の調査を比較すると、男性の加入意向について第1回調査では「加入したい」のウェイトが高かったが、組合についての知識が比較的少ないと思われる第2回調査では「分からない」のウェイトが高かった。

以上のことから、組合に対して、男性のほうが否定的な評価ではあるが、女性は「分からない」の評価が多くなっている。女性が定まった評価を下せないのは、女性にとってそれだけ組合が遠い存在だからであろうか。

4. 労働組合に関する知識の有無別の実態

(1) 労働組合の認知状況

～「中学・高校の授業」「大学の授業」で組合についての知識を得ている割合が高い～

次に、労働組合に関する知識の有無が、組合

に対するイメージや組合への加入意向とどう関連しているのかをみていく。

はじめに組合についての知識の入手経路が組合に関する知識の有無とどのように関係しているかを確認しておこう。第1回調査では、「労働組合がどのような組織か」を「知っている」と回答した学生は、主として「テレビ・ラジオのニュース等」(61.2%)や「新聞・雑誌」(34.2%)から知識・情報を入手していた。また、「家族・親戚から聞いた」と回答した学生も1割強存在していた。上記の傾向は、「知らない」と回答した学生にも共通していた。一方、「知っている」とする回答は「中学・高校の授業」(44.1%)、「大学の授業」(46.7%)、「インターネット」(15.1%)で、「知らない」と回答した学生よりも高い傾向にあった。

第2回調査では、「労働組合がどのような組織か」を「知っている」と回答した学生は、その情報源として「中学・高校の授業」を挙げた割合が最も多く約7割(70.6%)であった。次いで、「テレビ・ラジオのニュース等」(47.8%)、「新聞・雑誌」(31.6%)であった。それに対して、「聞いたことはある」と回答した学生では、「テレビ・ラジオのニュース等」を挙げた割合が6割強で最も多く、「中学・高校の授業」は6割弱であった。

2回の調査を総合すると、組合を「知っている」学生は、「知らない」学生に比べてマスコミや教育機関で組合についての知識を得ているという割合が高い結果であった。

(2) 労働組合に対するイメージ

～「知っている」学生の方が労働組合に対して肯定的～

学生の組合に対するイメージをみると、第1回調査では、知識がない学生の方が「自分には関係ない」というイメージを、知識がある学生の方が「頼もしい」「必要だ」「役に立つ」といったプラスのイメージを抱く傾向にあった。これ

は、組合への理解の深まりが、学生の組合の必要性・有用性の認識に資する可能性を示唆しているといえよう。

第2回調査では、知識がある学生の方が組合に対して肯定的な評価であるが、「知っている」ほうが、「ダサい」「怖い」「迷惑だ」「面倒くさそうだ」等のマイナスのイメージを持つ傾向がみられた。学生はプラス面だけではなく、マイナス面も「知っている」ということであろうか。また、全体的に「知らない」学生のほうが「分からない」と回答する割合が高かったことも特徴であった。

2回の調査を総合すると、組合についての知識がある学生のほうが、組合に対して肯定的なイメージを持っているという結果が得られた。

(3) 労働組合への加入意向

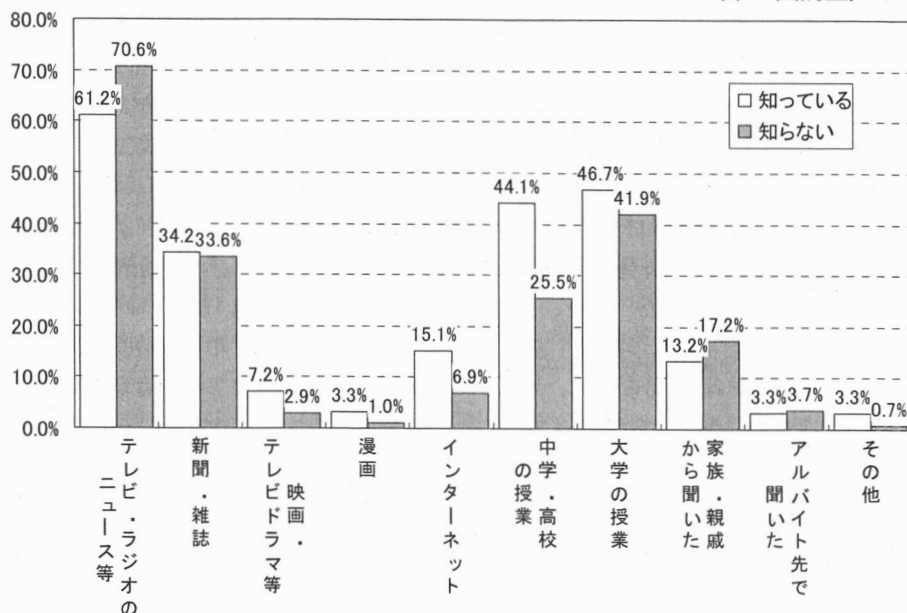
～「知っている」学生の方が組合加入に積極的～

組合に関する知識の有無別に就職後の組合への加入意向をみると、第1回調査では「ぜひ加入したい」と回答した割合は、「知っている」と回答した学生で27.4%にのぼるのに対して、「知らない」と回答した学生では7.8%にとどまっていた。同様に「必要に迫られたら加入したい」でも、「知っている」と回答した学生の割合の方が高くなっていた。逆に、「知らない」と回答した学生の方が、消極的回答が多かった。総じて、「知っている」と回答した学生の方が、加入に対して積極的であった。とはいえ、「必要に迫られたら」という回答が、組合の知識の有無を問わず最も多くなっていた。

第2回調査では、「知っている」と回答した学生は、「ぜひ加入したい」「勧められたら加入したい」「必要に迫られたら加入したい」までを合わせると過半数に達するのに対して、「知らない」と回答した学生では3割強にとどまっていた。総じて、「知っている」と回答した学生の方が、加入に対して積極的であった。ここでもや

大学生の労働組合観について—アンケート調査から見えるもの—

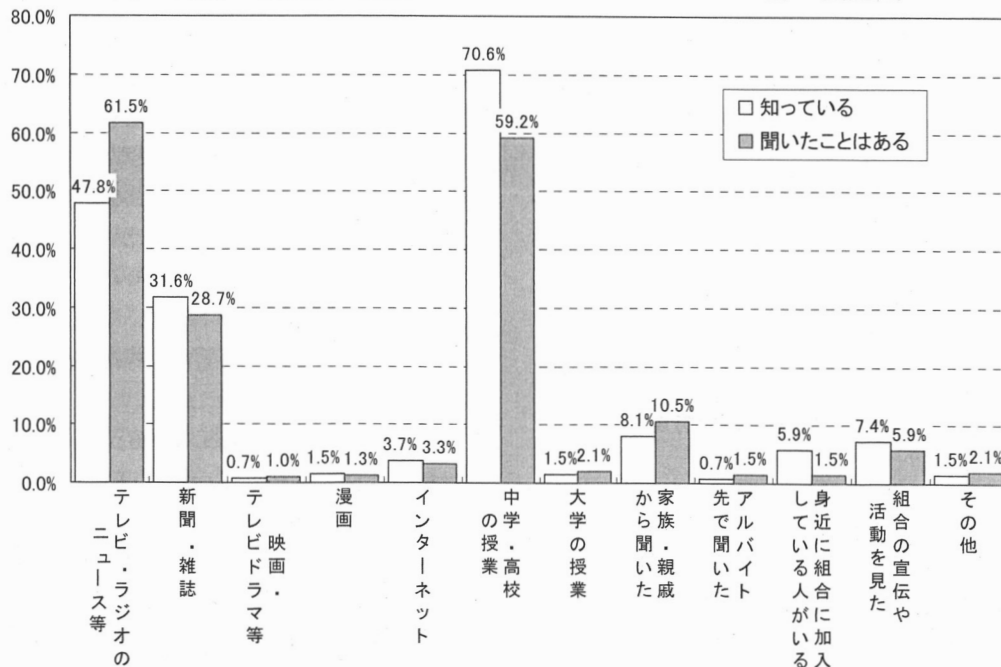
図4 知識の有無別、「労働組合」をどこで知りましたか？（第1回調査）



注1) アンケートで「知っている」と回答した学生を「知っている」とし、「聞いたことはある」と「知らない」と回答した学生を「知らない」として集計した。

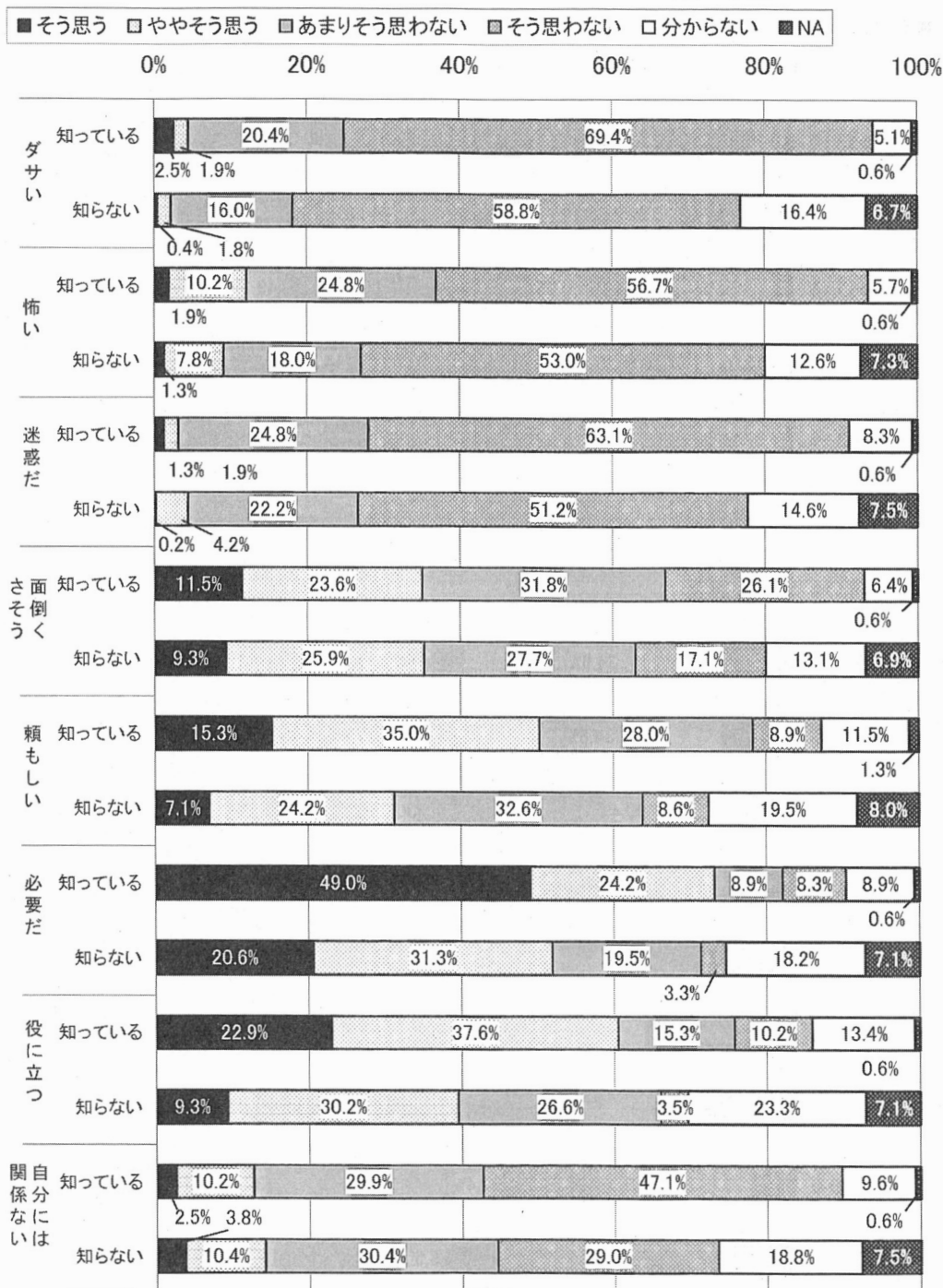
注2) N.A.のサンプル数が一桁にとどまったため、作図時には除いた。

図5 知識の有無別、「労働組合」をどこで知りましたか？（第2回調査）



注) アンケートで「知らない」と回答した学生は非該当となっている。

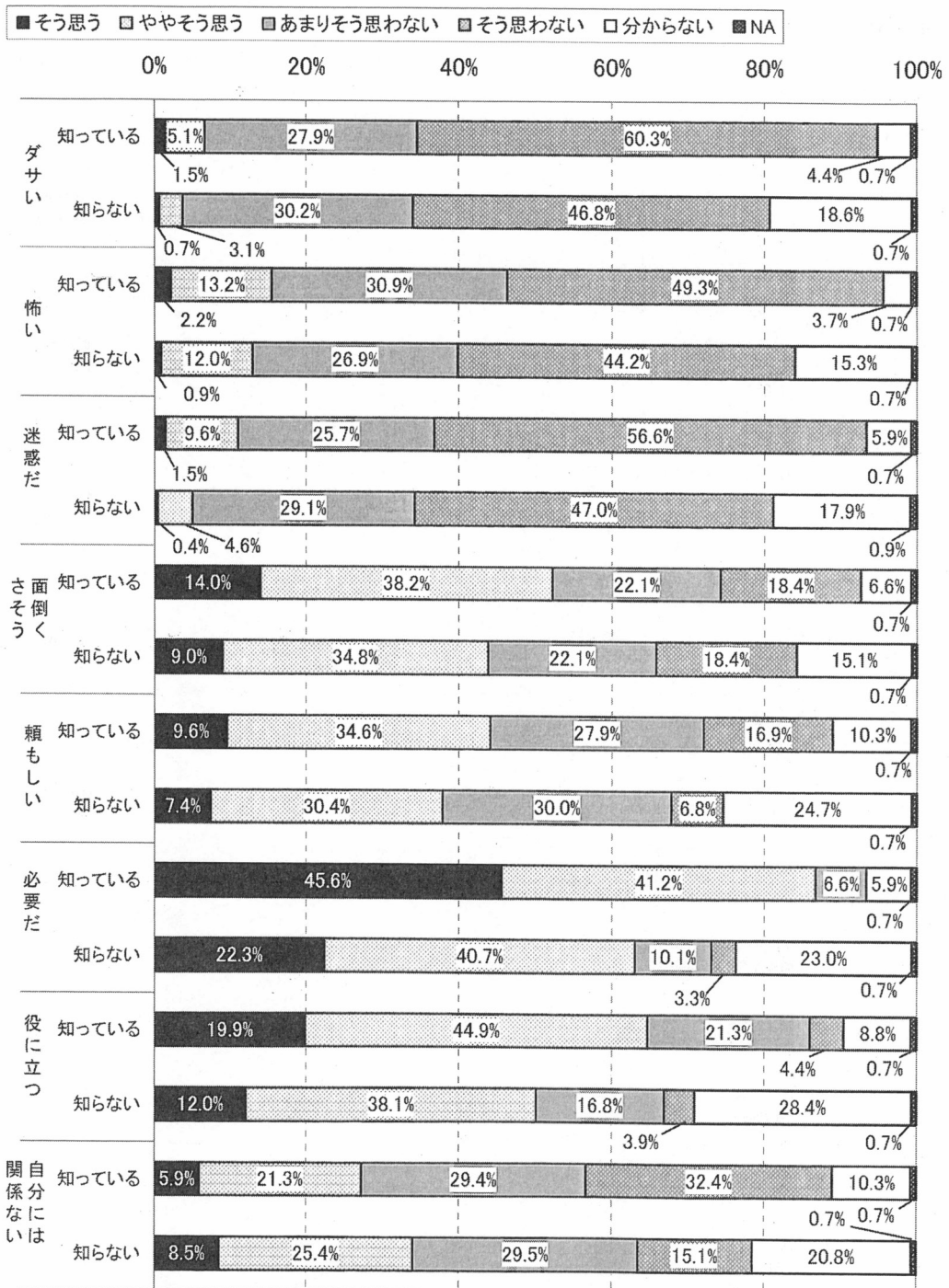
図6 知識の有無別、「労働組合」に対するイメージ (第1回調査)



注) アンケートで「知っている」と回答した学生を「知っている」とし、「聞いたことはある」と「知らない」と回答した学生を「知らない」として集計した。

大学生の労働組合観について—アンケート調査から見えるもの—

図7 知識の有無別、「労働組合」に対するイメージ（第2回調査）



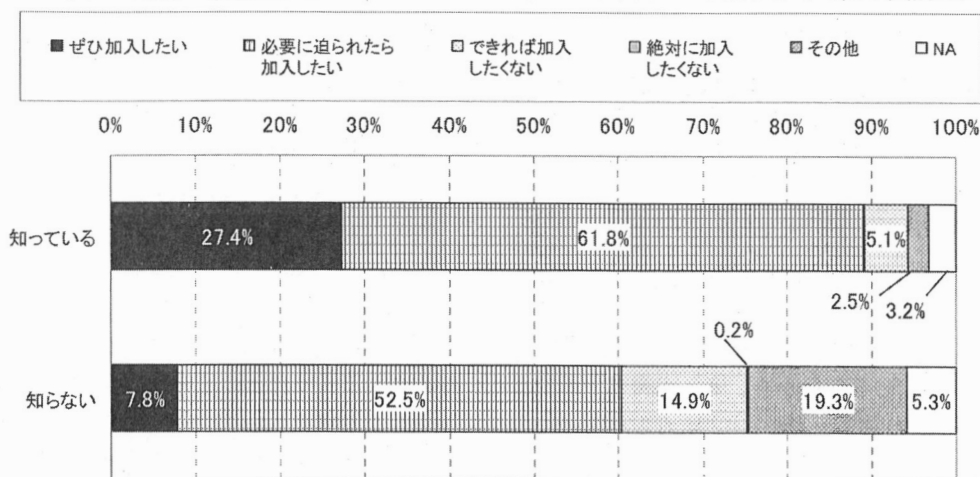
注) アンケートで「知っている」と回答した学生を「知っている」とし、「聞いたことはある」と「知らない」と回答した学生を「知らない」として集計した。

はり、「知っている」と回答した学生のうち最も多かったのが、「必要に迫られたら加入したい」であった。また、「分からない」という回答が、組合の知識の有無を問わず多い回答となっており（特に、「知らない」と回答した学生では50.1%）、新入生の段階ではまだ加入意向を決めかねていることがうかがえた。

2回の調査を総合すると、組合について「知っている」学生の方が加入に積極的であるという結果が得られた。

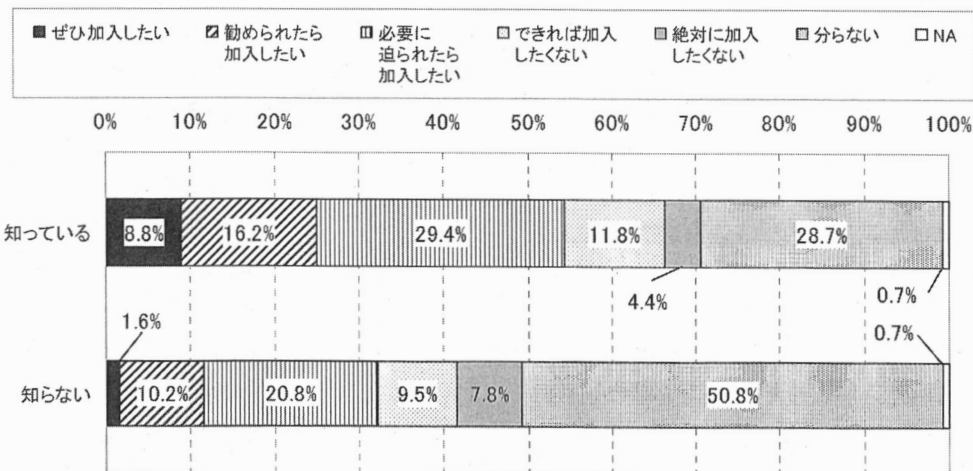
以上のことから、組合に関する知識がある学生の方が、全体的に組合の必要性・有用性を肯定的に捉える傾向にあった。また、組合への加入の意向に関しても、「知っている」と回答した

図8 知識の有無別、就職後に「労働組合」に加入したいと思うか？（第1回調査）



注) アンケートで「知っている」と回答した学生を「知っている」とし、「聞いたことはある」と「知らない」と回答した学生を「知らない」として集計した。

図9 知識の有無別、就職後に「労働組合」に加入したいと思うか？（第2回調査）



注) アンケートで「知っている」と回答した学生を「知っている」とし、「聞いたことはある」と「知らない」と回答した学生を「知らない」として集計した。

大学生の労働組合観について—アンケート調査から見えるもの—

学生の方が高くなっていた。

今後、研究面では、教育機関における学びや家庭での会話が労働組合を知る契機となる可能性、学生時代から就職後の組合に対するイメージの変化などが課題となるだろう。また運動面では、学生が組合を「困ったときだけ駆け込む場」と位置づけてしまわないようにどのような取り組みを進めるべきか、労働条件の改善主体として運動・交渉を積み重ねる組合の存在意義をどのようにアピールしていくかなどが課題になるのではないかと。

5. 労働組合への加入意向別の実態

ここでは、主に労働組合への加入意向と組合に対するイメージについてみていく。なお、「調査結果の概要」で述べたように、第1回調査での加入意向についての回答項目「①ぜひ加入したい」「②必要に迫られたら加入したい」「③できれば加入したくない」「④絶対に加入したくない」「⑤その他」の5項目から、第2回調査での回答項目「①ぜひ加入したい」「②勧められたら加入したい」「③必要に迫られたら加入したい」「④できれば加入したくない」「⑤絶対に加入したくない」「⑥分からない」の6項目に変更があったことを留意されたい。

調査項目に変更があったことから、ここでは、第1回調査と第2回調査それぞれに分けて分析することにした。

第1回調査については、「①ぜひ加入したい」「②必要に迫られたら加入したい」と回答したものを「加入したい」と思っている学生として、「③できれば加入したくない」「④絶対に加入したくない」と回答した学生を「加入したくない」と思っている学生として分析した。

第2回調査については、「①ぜひ加入したい」「②勧められたら加入したい」「③必要に迫られたら加入したい」と回答した学生を「組合加入に前向き」な学生として、「④できれば加入したくない」「⑤絶対に加入したくない」と回答した

学生を「組合加入に後ろ向き」な学生として、さらに「⑥分からない」と回答した学生を「組合加入するかどうか分からない」学生と三つに分けて分析した。

(1) 労働組合に対するイメージ（「加入したい」と思っている学生の場合）（第1回調査）

A) プラス・イメージについて

～半数がプラス・イメージをもっており、ほとんどが「自分には関係ない」とは思っていない～

「加入したい」と思っている学生の組合に対するプラス・イメージ（「頼もしい」「必要だ」「役に立つ」「自分には関係ない」）については、ほぼ半数が肯定的な評価であり、ほとんどの学生が「自分には関係ない」とは思っていなかった。

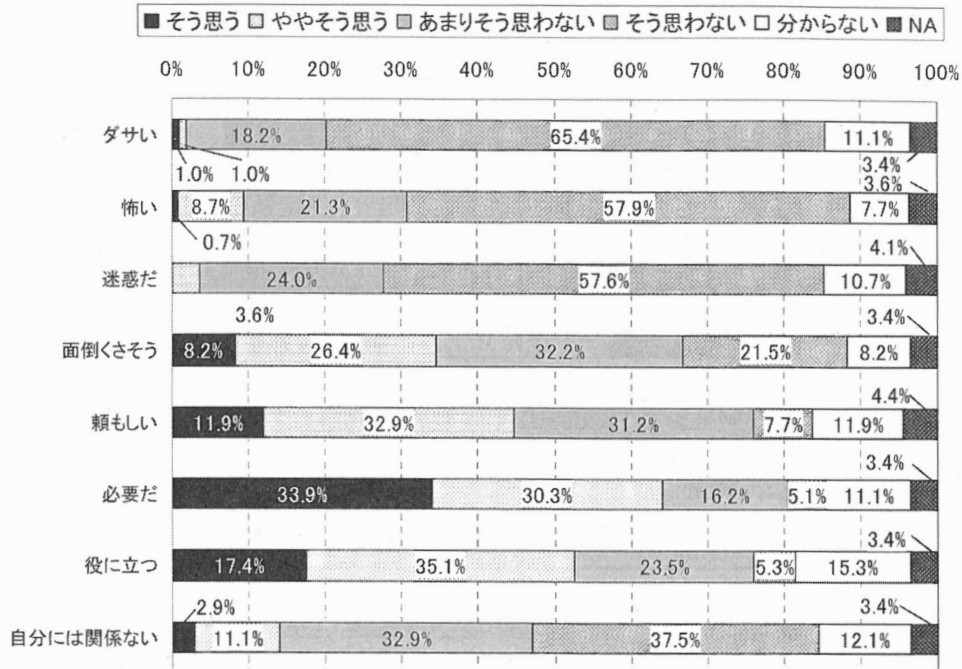
「頼もしい」と思っている学生は44.8%、そう思わない学生が38.9%であった。また、「必要だ」と思っている学生は64.2%で、そう思わない学生が21.3%であった。「役に立つ」と思っている学生は52.5%、そう思わない学生が28.8%であり、ほぼ半数が肯定的な評価をしていた。他方、「自分には関係ない」と思っている学生は14.0%、そう思わない学生が70.4%であり、ほとんどが組合に対して自分に関係ある存在であるという認識をもっていた。

B) マイナス・イメージについて

～ほとんどマイナス・イメージはもっていないが、「面倒くさそう」とは思っている～
「加入したい」と思っている学生の労働組合に対するマイナス・イメージ（「ダサイ」「怖い」「迷惑だ」「面倒くさそう」）については、ほとんどみられないが、「面倒くさそう」と思っている学生が3割ほどいた。

「ダサイ」と思っている学生は、2.0%（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）となっていて一方で、そう思わない学生（「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計）が83.6%であった。同様に、「怖い」と思っている学生は

図10 労働組合に対するイメージ（「加入したい」と思っている学生の場合）



注) アンケートで「ぜひ加入したい」と「必要に迫られたら加入したい」と回答した学生を「加入したい」として集計した。

9.4%、そう思わない学生が79.2%であった。「迷惑だ」と思っている学生は3.6%、そう思わない学生が81.6%であった。しかし、「面倒くさそう」と思っている学生は、34.6%となっている一方で、そう思わない学生が53.7%であり、組合に対する否定的な評価はほとんどないものの、「面倒くさそう」なイメージについては少なからずあった。

(2) 労働組合に対するイメージ（「加入したくない」と思っている学生の場合）（第1回調査）

A) プラス・イメージについて

～ほとんどが労働組合との関係がないとは思っていない～

「加入したくない」と思っている学生の組合に対するプラス・イメージ（「頼もしい」「必要だ」「役に立つ」「自分には関係ない」）については、ほぼ半数が肯定的な評価であり、ほとんどの学

生が「自分には関係ない」とは思っていなかった。

「頼もしい」と思っている学生は18.4%、そう思わない学生が44.8%であった。また、「必要だ」と思っている学生は38.1%、そう思わない学生が30.2%であった。さらに、「役に立つ」と思っている学生は30.2%、そう思わない学生が31.6%であった。また、「自分には関係ない」と思っている学生は25.0%、そう思わない学生が47.4%であった。「加入したくない」でも、およそ半数が組合に対して自分に関係ある存在であるという認識をもっていた。

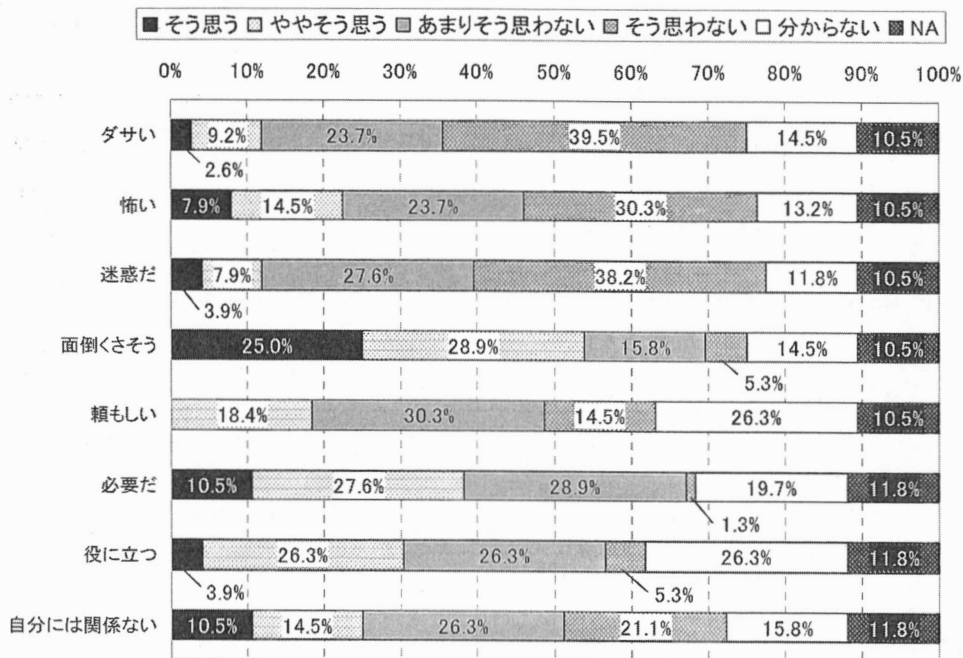
B) マイナス・イメージについて

～「面倒くさそう」というイメージは強い～

「加入したくない」と思っている学生の組合に対するマイナス・イメージ（「ダサイ」「怖い」「迷惑だ」「面倒くさそう」）については、それほど多くはないが、「面倒くさそう」と思っている学生が半数程度いた。

大学生の労働組合観について—アンケート調査から見えるもの—

図11 労働組合に対するイメージ（「加入したくない」と思っている学生の場合）



注) アンケートで「できれば加入したくない」と「絶対に加入したくない」と回答した学生を「加入したくない」として集計した。

「ダサい」と思っている学生は11.8%で、そう思わない学生が63.2%であった。また、「怖い」と思っている学生は、22.4%、そう思わない学生が53.9%であった。「迷惑だ」と思っている学生は11.8%、そう思わない学生が65.8%であった。このように、「加入したい」と思っている学生に比べると否定的な評価の割合が若干高いが、それほど多いわけではない。しかし、「面倒くさそう」と思っている学生は53.9%、そう思わない学生が21.1%となっており、「面倒くさそう」なイメージが加入意向に少なからず影響しているものと考えられる。

(3) 労働組合に対するイメージ（「加入に前向き」な学生の場合）（第2回調査）

A) プラス・イメージについて

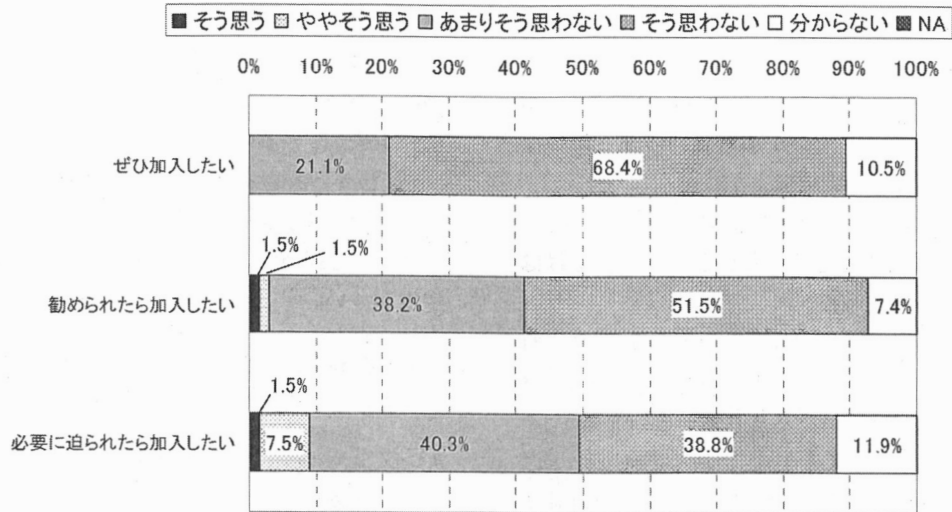
～ほとんどが「必要だ」と思っている～

「組合加入に前向き」な学生の組合に対するプ

ラス・イメージ（「頼もしい」「必要だ」「役に立つ」「自分には関係ない」）については、多くの学生が肯定的な評価であった。特に、組合は「必要だ」と思っている学生は、87.1%（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）に達しており、その必要性についてはほとんど否定されていなかった。

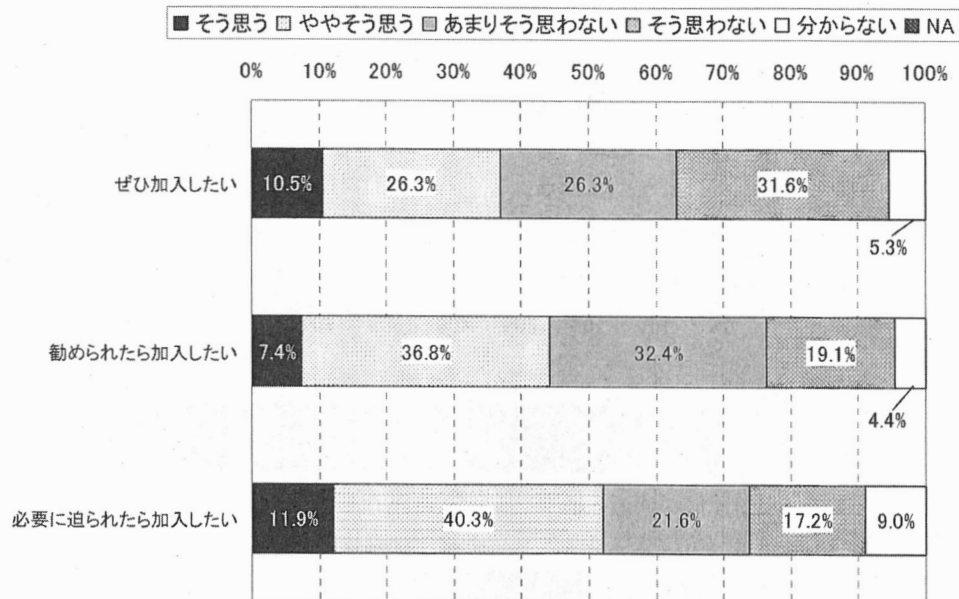
また、加入意向の強弱で比較してみると、「ぜひ加入したい」と思っている学生のうち、「頼もしい」と思っているのは、73.6%（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）、「必要だ」と思っているのは94.7%（同）、「役に立つ」と思っているのは78.9%（同）、「自分には関係ない」と思っていないのは84.2%（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計）であったのに対して、「必要に迫られたら加入したい」と思っている学生のうち、「頼もしい」と思っているのは、44.1%（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）、「必要

図12 労働組合に対するイメージ（「ダサイ」と思いますか？）



注) N.A.のサンプル数が一桁にとどまったため、作図時には除いた。

図13 労働組合に対するイメージ（「面倒くさそう」と思いますか？）



注) N.A.のサンプル数が一桁にとどまったため、作図時には除いた。

大学生の労働組合観について—アンケート調査から見えるもの—

だ」と思っているのは81.4% (同)、「役に立つ」と思っているのは64.9% (同)、「自分には関係ない」と思っていないのは56.0% (「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計) であった。組合のプラス・イメージが加入意向の強さにつながっていることが確認できた。

B) マイナス・イメージについて

～「面倒くさそう」というイメージだけは強い～

「組合加入に前向きな」学生の多くは、組合に対してマイナス・イメージ(「ダサイ」「怖い」「迷惑だ」「面倒くさそう」)をあまりもっていないが、そのなかで「面倒くさそう」というイメージだけは5割弱(「そう思う」と「ややそう思う」の合計で49.1%)の学生がもっていた。

また、加入意向の強弱で比較してみると、「ぜひ加入したい」と思っている学生のうち、「ダサイ」と思っているのは、0.0%(「そう思う」と「ややそう思う」の合計)、「怖い」と思っているのは10.6%(同)、「迷惑だ」と思っているのは0.0%(同)、「面

倒くさそう」と思っているのは36.8%(同)であった。「必要に迫られたら加入したい」と思っている学生のうち、「ダサイ」と思っているのは9.0%(同)、「怖い」と思っているのは15.7%(同)、「迷惑だ」と思っているのは11.9%(同)、「面倒くさそう」と思っているのは52.2%(同)であった。組合活動について、「面倒くさそう」というマイナス・イメージを持っていても、「組合加入に前向き」な学生が多い。

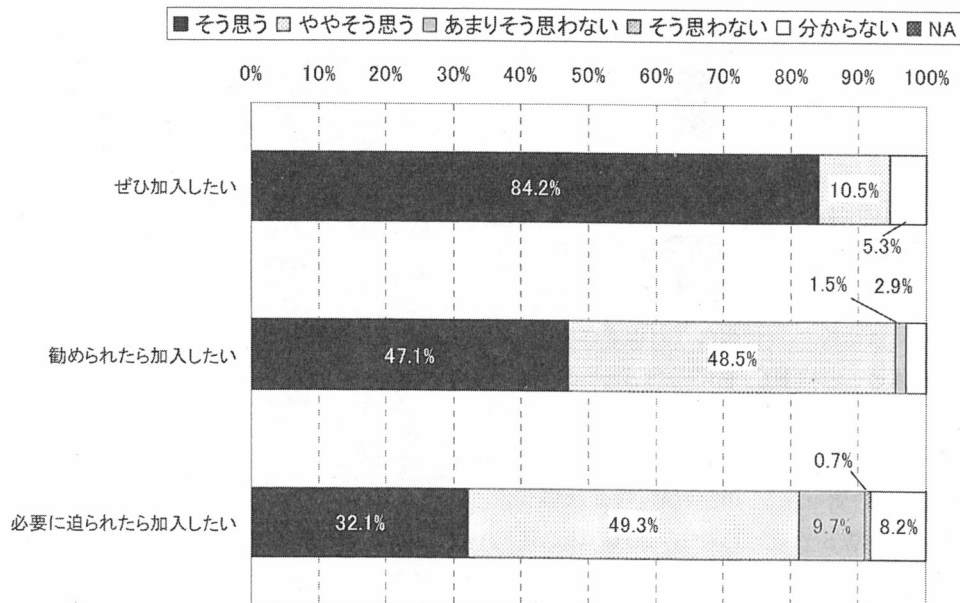
(4) 労働組合に対するイメージ(「加入に後ろ向き」な学生の場合)(第2回調査)

A) プラス・イメージについて

～「必要だ」「役に立つ」とは思っている～

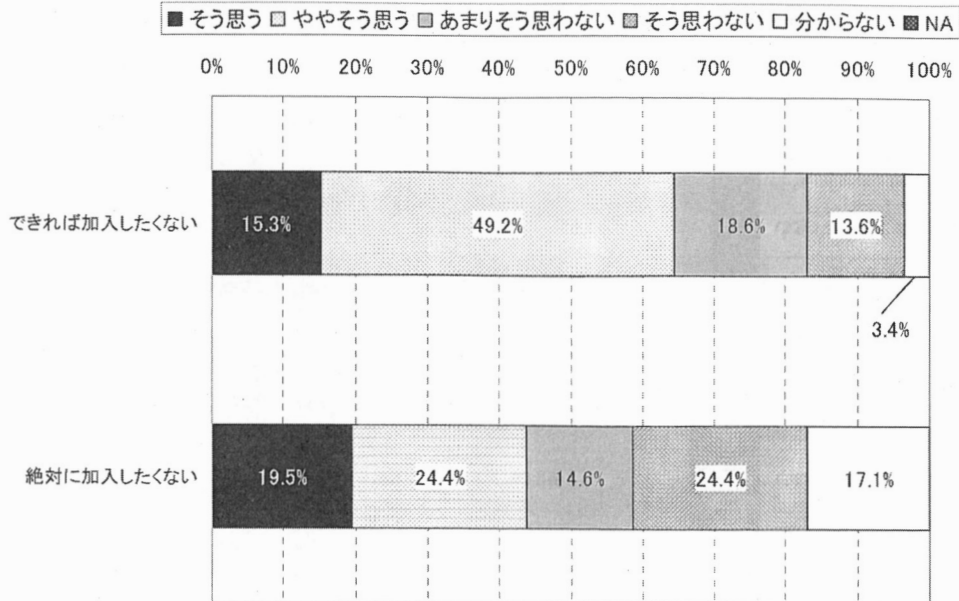
「組合加入に後ろ向き」な学生の組合に対するプラス・イメージ(「頼もしい」「必要だ」「役に立つ」「自分には関係ない」)については、「頼もしい」と「自分には関係ない」では、否定的な評価が肯定的な評価を上回る一方で、「必要だ」と「役に立つ」では組合への加入意向はなくと

図14 労働組合に対するイメージ(「必要だ」と思いますか?)



注) N.A.のサンプル数が一桁にとどまったため、作図時には除いた。

図15 労働組合に対するイメージ（「面倒くさそう」と思いますか？）



注) N.A.のサンプル数が一桁にとどまったため、作図時には除いた。

も肯定的な評価であった。また、「分からない」と回答する学生の割合が多くなるのは注目すべき点であった。

また、加入意向の強弱で比較してみると、「絶対に加入したくない」と思っている学生のうち、「頼もしい」と思っているのは、24.4%（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）、「必要だ」と思っているのは65.8%（同）、「役に立つ」と思っているのは53.7%（同）、「自分には関係ない」と思っていないのは43.9%（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計）であったのに対して、「できれば加入したくない」と思っている学生のうち、「頼もしい」と思っているのは39.0%（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）、「必要だ」と思っているのは71.5%（同）、「役に立つ」と思っているのは42.4%（同）、「自分には関係ない」と思っていないのは28.8%（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計）であった。必ずしもプラスのイメージが、

加入意向の強さに結びつくのではないようであった。

B) マイナス・イメージについて

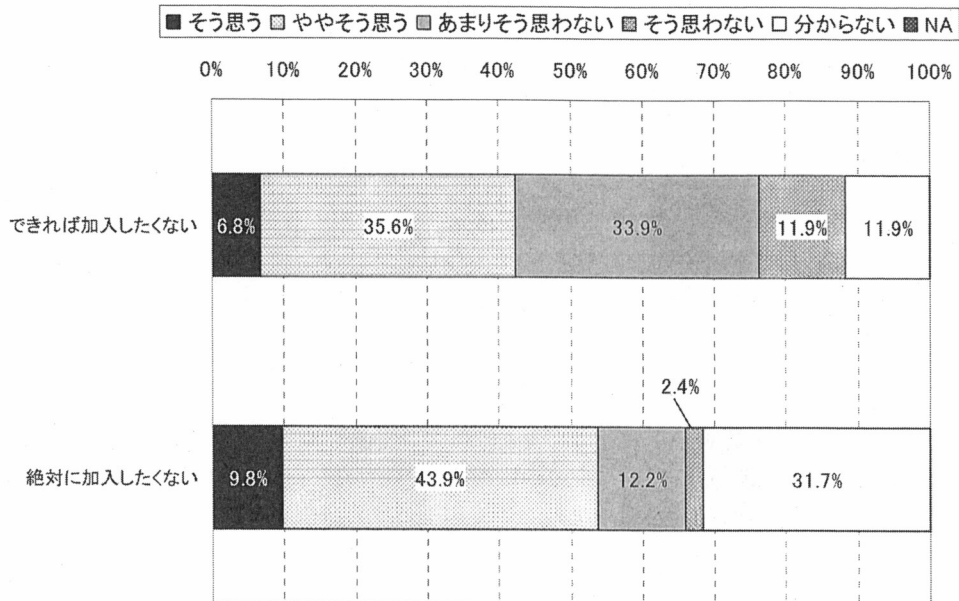
～イメージと結びつかない加入意向の強さ～

「組合加入に後ろ向き」でも、組合に対するマイナス・イメージ（「ダサイ」「怖い」「迷惑だ」「面倒くさそう」）はそれほど強くはないが、「面倒くさそう」と思っている学生が5割強であった。

加入意向の強弱で比較してみると、「絶対に加入したくない」と思っている学生のうち、「ダサイ」と思っているのは、7.3%（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）、「怖い」と思っているのは7.3%（同）、「迷惑だ」と思っているのは2.4%（同）、「面倒くさそう」と思っているのは43.9%（同）であったのに対して、「できれば加入したくない」と思っている学生のうち、「ダサイ」と思っているのは5.1%（同）、「怖い」と思っているのは32.2%（同）、「迷惑だ」と思っている

大学生の労働組合観について—アンケート調査から見えるもの—

図16 労働組合に対するイメージ（「役に立つ」と思いますか？）



注) N.A.のサンプル数が一桁にとどまったため、作図時には除いた。

のは10.2%（同）、「面倒くさそう」と思っているのは64.5%（同）となっており、加入意向の強さとマイナス・イメージとのあいだに必ずしも相関はみられなかった。

(5) 労働組合に対するイメージ（「加入するかどうかわからない」学生の場合）（第2回調査）

第2回調査は、調査対象が新生児であったこともあり、組合への加入については「分からない」と回答する学生が多いのが特徴であった（全体の45.2%）。

A) プラス・イメージについて

～「必要だ」「役に立つ」とは思っている～

「組合に加入するかどうかわからない」学生の組合に対するプラスのイメージ（「頼もしい」「必要だ」「役に立つ」「自分には関係ない」）については、肯定的な評価が多数派であった。また、ここでもやはり「分からない」と回答する割合が多くなっていた。マイナス項目よりも「分か

らない」と回答する割合が高くなっている点に注目すべきであろう。

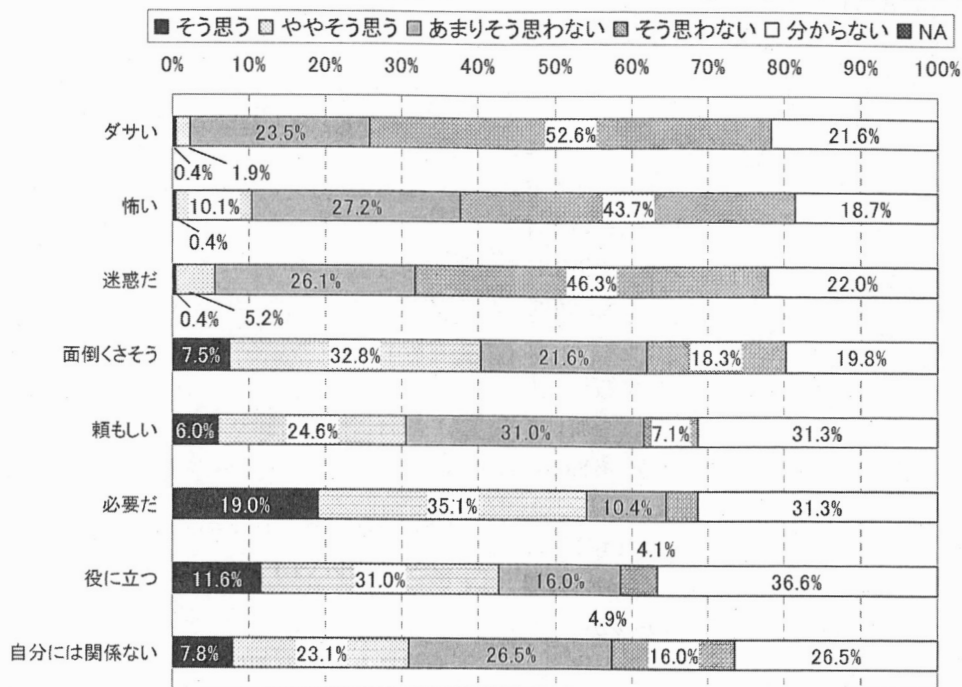
B) マイナス・イメージについて

～組合に対するイメージを描けない～

「加入するかどうかわからない」学生のうち、組合に対してマイナスのイメージ（「ダサイ」「怖い」「迷惑だ」「面倒くさそう」）を持っているのは少数派であるが、「面倒くさそう」と思っている学生は4割強いた。また、イメージについて「分からない」と回答する学生の割合が、加入意向の定まっている学生のそれよりも高くなっていた。イメージが定まらないこと（持てないこと）が、加入意向を定められないことにつながっていると考えられる。

以上、2回の調査をまとめると、加入意向にかかわらず組合に対して肯定的な評価であったが、「加入したくない」もしくは「加入に後ろ向き」な学生の方が組合に対するマイナスのイメージが強かった。組合への加入意向を左右する要因とし

図17 労働組合に対するイメージ（加入するかどうか「分からない」と思っている学生の場合）



注) N.A.のサンプル数が一桁にとどまったため、作図時には除いた。

ては、組合のイメージが少なからず関与しており、その意味で学生に情報・知識を与えているマスコミや教育機関の責任は大きいだろう。

6. 学年別の実態（第1回調査結果のみ）

(1) 労働組合の認知状況

～高学年ほど認知度が上昇？～

第1回調査では、回答者には3、4年生が少なく、1、2年生は福祉系学部の短大で女子学生が多いなど、学年別分析には注意が必要であるが、特徴的な結果に注目してみていくことにする。

労働組合について知っているかどうかについては、1、2年生が約2割、3、4年生が4～5割となっており、学年が上がるほど組合に対する認知度が上がっているようにも見える。ただし、1、2年生には非社会科学系学部の短大生が多く含まれていることから、これが学年に

よるものなのか、学部差によるものなのかは明らかではない。

組合をどこで知ったかについては、「テレビ・ラジオのニュース等」は1年生の61.2%に対して2～4年生はいずれも71%、「新聞・雑誌」は1年生から順に25.3%、36.8%、40.9%、32.3%、「インターネット」は2.2%、9.3%、21.2%、12.9%であり、学年が上がるに従いニュース報道を見たり、新聞・雑誌を読んだり、インターネットを利用する割合が高まり、組合について知るようになってきているのかもしれない。

「中学・高校の授業」は19.1%、33.2%、45.5%、45.2%で、学年が上がるに従い増えているが、「大学の授業」と回答したのが最も多いのは1年生の65.2%で、学年が上がるに従い34.6%、30.3%、22.6%と減少していた。

大学生の労働組合観について—アンケート調査から見えるもの—

(2) 労働組合に対するイメージ

～「怖い」「面倒くさそう」は高学年ほど「そう思う」が増加～

組合に関するイメージについては、全体的に1、2年生の方が「分からない」が多く、その分3年生は肯定的な評価（マイナス項目については「そう思わない」という回答）が多く、4年生は否定的な評価が多い傾向があった。こうしたなかで興味深いのは、「怖い」に関して「そう思う」はそれぞれ0.0%、1.6%、2.9%、6.3%であり、水準は低いながらも学年が高まるにつれて増加している点である。同様に、「面倒くさそう」も8.0%、8.6%、12.9%、28.1%であった。

他方、プラス項目に関しては、いずれも1、3年より2、4年の方が評価が低く、「自分には関係ない」は3年生の方で「そう思う」が多かった。

(3) 労働組合への加入意向

就職後の組合への加入意向については、やはり1、3年より2、4年の方が「必要に迫られたら加入したい」は少なく、「できれば加入したくない」は多い。この点について、4年制大学と短大とに分けても同様の結果であった。

以上のように、本調査の結果からは、学年が上がるにつれて組合に対する認識は高まり、自分と関係があると考ええる学生が多くなる。また、組合に対する評価は「分からない」が減り、全体的には肯定的な評価が高いなかで、自分と関係あるとする学生は増えていくものの、否定的な評価が学年とともに高まる傾向がみられた。

7. アルバイト経験の有無別の実態（第2回調査結果のみ）

第2回調査では、アルバイト経験があるかどうかについて聞いている。アルバイト経験があれば、職場の実態に対する知識や関心も高まり、あるいは職場で労働組合に関する情報を見聞きすることで、組合に対するイメージに変化が生

じるかも知れない。そこで、この点についてみていくことにしよう。

(1) 労働組合の認知状況

～アルバイト経験の有無で差はみられない～

組合について知っているかどうかについて「知っている」と答えたのは、アルバイト経験「なし」と「あり」でそれぞれ22.9%、22.3%、「聞いたことがある」は68.0%、67.9%、「知らない」は9.1%、9.8%で、両者にほとんど差はなかった。

組合について知った経緯についても、アルバイト経験の有無による差はほとんどなかった。

(2) 労働組合に対するイメージ

～アルバイト経験の有無で差はみられない～

組合に対するイメージも、アルバイト経験の有無によって大きな違いがあるわけではない。しかし、強いていえば、マイナスのイメージについては、概してアルバイト経験がある学生の方が「分からない」がやや少なく、「そう思わない」がやや多い傾向がある。たとえば、「ダサイ」については、アルバイト経験「なし」と「あり」では、「分からない」についてそれぞれ18.2%、13.8%であったが、「そう思わない」は48.2%、52.1%であった。「怖い」については「分からない」が15.4%、10.5%、「そう思わない」は41.1%、49.5%。「迷惑だ」は「分からない」が18.6%、12.8%、「そう思わない」は47.0%、51.8%。「面倒くさそう」は「分からない」が15.0%、11.8%、「そう思わない」は14.6%、21.3%となっている。

プラスのイメージについては、アルバイト経験「なし」の方が「分からない」が多い点は同じであるが、そのぶん経験「あり」は肯定的な評価と否定的な評価に割れている。たとえば、「頼もしい」は、「分からない」がそれぞれ24.1%、20.0%だが、「そう思わない」は6.3%、10.8%、「あまりそう思わない」はほぼ同じで30.0%

図18 アルバイト経験の有無別、「労働組合」に対するイメージ「ダサイ」

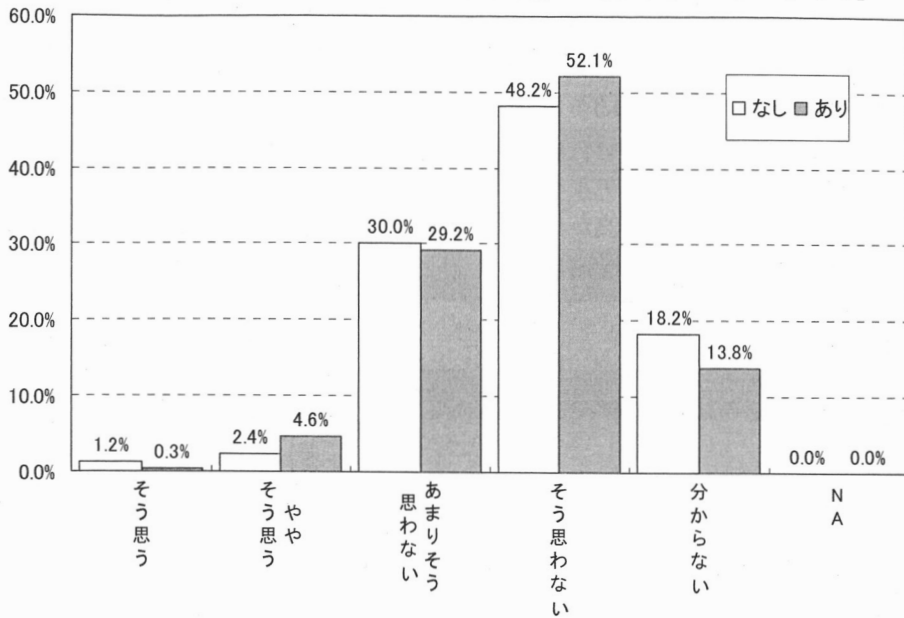
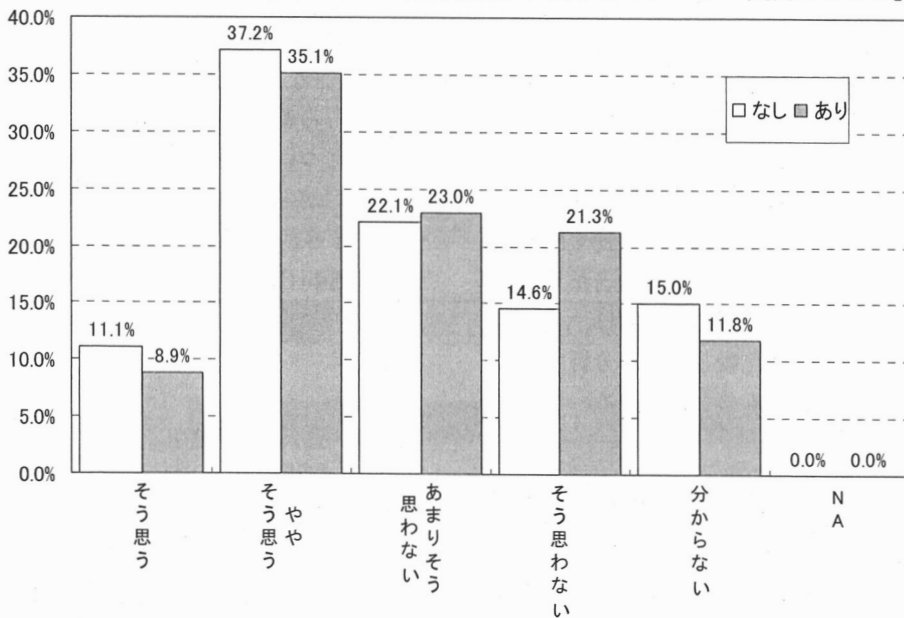


図19 アルバイト経験の有無別、「労働組合」に対するイメージ「面倒くさそう」



大学生の労働組合観について—アンケート調査から見えるもの—

と29.2%、「ややそう思う」は30.8%、33.1%、「そう思う」は8.7%、6.9%であった。また、「必要だ」は「分からない」が22.9%、16.7%、そのぶん「ややそう思う」は38.7%、44.3%となっている。「役に立つ」は「分からない」が29.6%、20.3%と開きがあり、そのぶんアルバイト経験「あり」の方が全体的に割合が高かった。アルバイト経験がプラスのイメージを高めるとはいえないようだ。

(3) 労働組合への加入意向

～経験ありは「できれば加入したい」がやや多い～

加入の意向についても、その差は大きくはないが、アルバイト経験「なし」と「あり」で、「できれば加入したくない」がそれぞれ7.9%、11.5%とやや「あり」の方が多く、「勧められたら加入したい」がそれぞれ12.6%、10.5%と「なし」の方がやや多かった。

以上のように、アルバイト経験の有無は、労働組合に関する認知状況、労働組合に対するイメージ、そして労働組合への加入意向に大きく影響を与えているようには見えなかった。とはいえ、第2回調査は新入生を対象としたものであり、その多くはアルバイト経験が長くはないと考えられるので、こうした結果は当たり前のことかもしれない。むしろこの設問は、今後の調査で上級生の回答と比較しながら分析することによって生きてくるものと思われる。この点は今後の課題としたい。

8. 自由記述からみえてくるもの

(1) 自由記述記入者の概要

～「必要に迫られたら加入する」の中身は肯定も否定も含めて様々～

加入意向について、その理由を記入してもらっている。第1回調査は約半数（48.4%）、第2回調査は約8割（79.2%）が回答している。その意見を、「①よく知らないから」「②肯定的意見

」「③否定的意見」「④なんとなく」「⑤誤解・偏見」「⑥その他」に大別すると、ともに「よく知らないから」が大きな割合を占めていて、第2回調査は58.0%で、第1回調査よりも10ポイント以上高くなっている（第1回47.3%）。また、組合に対する肯定的な意見については、第1回調査が21.4%、第2回調査が15.4%で、第1回調査の方が6ポイント高くなっている。否定的な意見は10.7%と9.2%（第2回）、「なんとなく」は17.1%と14.1%（第2回）でほぼ同じであった。

先に述べたように、加入意向については、第1回調査から「その他」を削除し、「勧められたら加入する」「分からない」という項目を付け加えて第2回調査を行っているので単純に比較はできないが、自由記述の内容については比較的同じような傾向で、さまざまな意見がみられた。そこで、加入意向と自由記述（分類）をクロスして、その特徴をみた。「必要に迫られたら加入する」については、その理由の構成比は両調査でほぼ同じで、肯定的意見が2割、否定的意見が1割、「なんとなく」が2～3割、「よく知らないから」が4割とさまざまな意見があった。第2回についてはすべての回答に「よく知らないから」がみられ、特に「絶対に加入したくない」では8割を占めていて、「よく知らない」ことが労働組合に対して否定的になる面を示している。このように組合についてよく知らないこ

図20 加入意向の理由について（第2回調査）

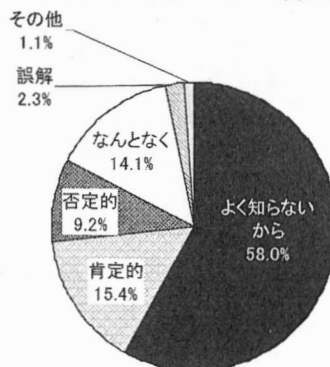


図21 加入意向と自由記述のクロス（第1回調査）

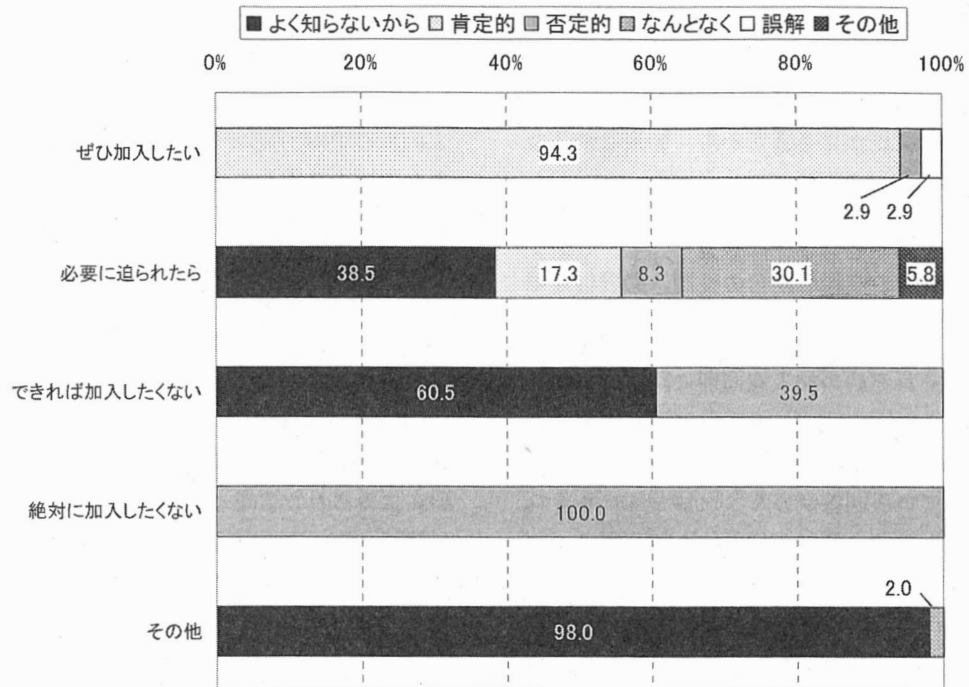
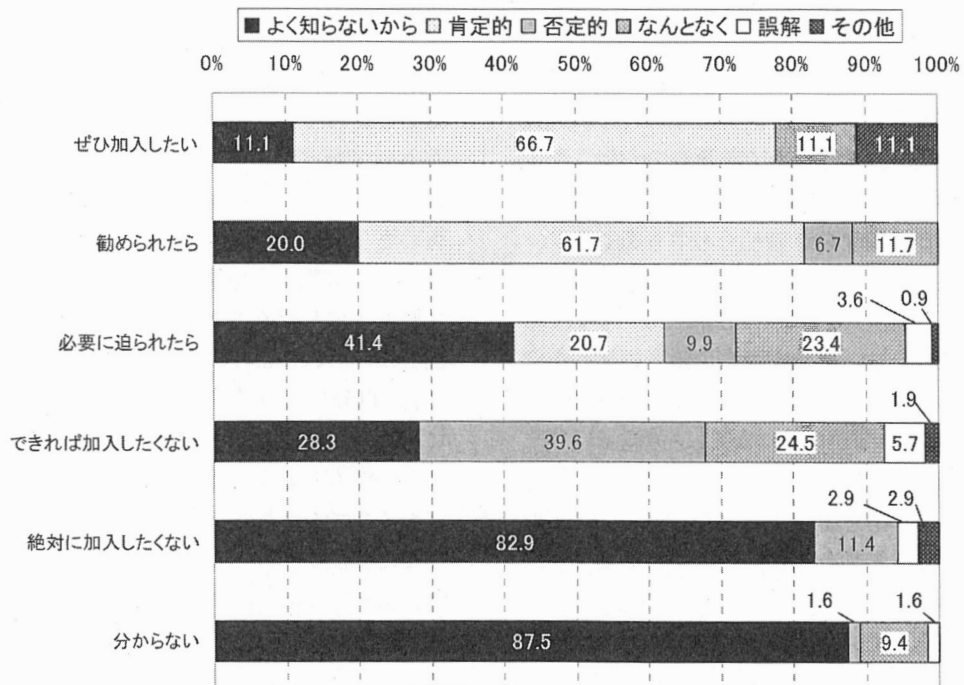


図22 加入意向と自由記述のクロス（第2回調査）



大学生の労働組合観について—アンケート調査から見えるもの—

とが、「労働組合の活動がどのようなものなのかあやふやだが良く聞く言葉なので重要そうだから」といった加入の方向にもみられるが、「仕事の内容はよくわからないけど、なんだかとても大変そうで責任が重そうだから」加入したくないという回答もみられた。

(2) 組合に肯定的な学生の意見

～労働者の権利や組合の役割、必要性を挙げている～

次に、それぞれの加入意向別に回答の特徴を見ていくと、「ぜひ加入したい」では、団体交渉や労働者の権利擁護など労働組合の役割について理解している回答が多く、「イメージ」もそれに準じるもので、それが積極的な加入意向につながっている。その他、「父の会社は労働組合があるが、母の職場にはないので、父に労働組合があるところに就職した方がいいといわれたので」、「親のように人から必要とされて、信頼されて、社会のためになるような人になりたい」、「親に労働組合は労働者の権利を守るのに必要だと聞いた」からと、親の職場環境、親の勧めなど親の影響によって、労働組合への加入意向を示しているものいる。「介護福祉士の社会的地位が低いと聞くので、少なくとも自分が働く職場で地位向上を勝ち取っていききたい」といった、自分自身の就職先を意識したものもあった。

「勧められたら加入したい」（これは第2回調査のみの選択肢）では、「ぜひ加入したい」でも見られたように「自分を含め労働者の権利を守りたいから」という労働者としての権利意識、「労働者側の仲間がほしいから」「労働者はひとりじゃ弱いから」という連帯への意欲など肯定的な意見が6割を占めていた。その一方で、「現代においてあまり有効に機能しているようには思えないがなくてはならない組織とは思うため」「一応、加入したほうが安全だと思ったので」というものもあった。また、「加入したいが不便な面もあるから」、「保険と一緒に入っていても困

ることは無いし、何かあったとき助けてくれるので入りたいとは思うけど、入り方とかはわからないから」「最近の労働組合にそこまで力があるとは思えないから」というものもあった。第1回調査でも、「必要に迫られたら加入する」のなかで「人に言われたら入った方がいいのかなと思う」、「必要だと思うが勧めがないと入りにくい」、「自分から進んで、入ろうとは思わないし、誰かに言われれば入ろうと思った」など、勧誘をされたら入るという回答もみられ、積極的な勧誘が効果的といえる。

「必要に迫られたら加入したい」では、先に触れたように様々な意見がある。「ぜひ加入したい」にみられたような組合の役割、必要性から「就職してもし困ったことがあったら会社と対等に話せるのは組合だと思う」「労働組合に入れば何か問題が起こったときに抗議できる」「会社に不満があっても1人では何も言えない」「不利益を被りたくない」「会社に意見するなら個人より団体の方がよいと思う」からという回答もあった。漠然とした「役立つことがありそう」「守ってくれそう」という回答もあった。

しかし多くの回答は、労働組合のことをよく知らないで、調べてから、理解してからというものであった。そこから「自分にとって必要と思ったら加入したい」という回答につながるものも多くみられた。なかには、「労働環境が自分にとって悪くない状況であれば、組合に入って動くまでしなくてもよいと思うから」という回答にみられるように、「自分のためになるのなら」、「自分にとって必要と感じたら」「入って得になったり、自分にとってよいなら入った方がいいのかもしれないと思った」など自分のためになるのであればという回答があった。

また、「仕事を守るために必要なことだと思うが、組織に属することがあまり好きではない」、「組合費や会合とか面倒くさそう」など、組織に属することへのわずらわしさ、組合活動が面倒そうだからということで、「必要に迫られたら加

入したい」という回答もある。「労働組合に加入してもあまり意味がなさそう」「できれば加入したくない」など加入に対して消極的な回答もここではみられた。「特に必要がなければ面倒くさい」がそれでも自分にとって意味があるなら、加入したいという回答になっていると考えられる。なかには、「自ら進んで加入すべきでもない」、「特に入りたいと思わない」という回答もあった。

このように、「必要に迫られたら加入したい」では、組合の役割を意識して加入したいという回答、必要性は理解しているものの積極的になれないという回答、漠然としたイメージ、自分にとって役立つものなら、勧誘のされかた次第など、いろいろな回答が含まれていた。

(3) 組合に否定的な学生の意見

～「必要性がない」「変わらない」を挙げている～

「できれば加入したくない」では、「よく知らないから」が大半を占めている。しくみ、内容など何をするかわからないことが、加入したくないにつながる回答となっていた。具体的な理由としては、「面倒なわりに大して何もしてくれないそうだから」「活動が大変そうだと思うから」「お金がかかりそう」「組合費が高いと嫌だから」という漠然とした面倒、組合費の徴収が挙げられていた。「加入すると就職先から良く思われたいと聞いたことがあるから」という回答もあった。また、「(将来) 看護師になって (いる予定で)、ただでさえ疲れているのにまた疲れるようなことをするのは気が引ける」という具体的な業務との両立で悩んでいる回答もあった。

その他、組合に対するマイナスのイメージとしては、「(自分の) 労働条件に不満がなければ入らなくていい」「加入したとしても日本では形だけの会社が多く、あまり必要性がないため」「労働組合に加入することで国が変わらないと思う。だが自分が絶望的な立場になったら望みが

あるのなら参加したい」などがあつた。

また、「現代においてあまり有効に機能しているようには思えない」「形骸化して機能不全になっている」「加入したとしても日本では形だけの会社が多く、あまり必要性がない」というもみられた。そのなかで、「形骸化・企業側に近い組合なら加入したくないが、そうでなければ加入する」といった意見もあった。

(4) 誤解や偏見を含む学生の意見

～「組合＝保険?」「組合＝宗教?」～

誤解や偏見に含まれるものとしては、「財形貯蓄のメリット」「失業保険がでると思うから」という保険の一種と考えているものや、「宗教がからんできそうだから」といったものである。また「労働組合がどういう企業か知らない」「他に夢があるから」「労働条件が悪いところで労働組合がありそう」「できれば労働組合がなくてもしつかり労働者のことを考えてくれる会社に勤めたい」といったものもみられた。さらに「妄信的な人間とかがいそうでいろいろと面倒なことになりそう」「社会的地位を失うことがあるため」といったものもあった。

全体的には、労働組合について「よく知らないから」という回答が多く、特に「その他」ではほとんどが「詳しく知らないから」「理解していないから」という回答になっている。「よく知らない」という回答は、「必要に迫られたら加入したい」の4割前後、「できれば加入したくない」の7割(第2回調査は3割)を占めている。そのなかで、「必要に迫られたら加入したい」は「よく知らないけど、加入したい」、「できれば加入したくない」は「よく知らないから、加入したくない」、「その他」は「よく知らないからこれから考える」という傾向が強く見える。

このように組合に対して拒否的、否定的な回答は「できれば加入したくない」、「絶対に加入したくない」にみられ、「必要に迫られたら加入したい」は組合に対して積極的な回答を含みつ

大学生の労働組合観について—アンケート調査から見えるもの—

つ、無関心・消極的な回答がみられた。「その他」「わからない」という回答は組合に対して積極的になりうる可能性を十分に有していると考えられる。逆に、拒否的、否定的な回答であっても労働組合活動について正しく伝え、理解が深まることで大きく変化する可能性をもっている。つまり「よく知らないから」という層に対して働きかけることは、組織拡大に大きな役割を果たすと考えられる。

おわりに

以上のように、大学生の労働組合に対するイメージは概して肯定的なものであった。果たして、こうしたイメージは将来の労働組合加入者の増加に結びつくだろうか。

冒頭で触れた労働総研と全労連の共同調査では、組合未加入の20歳代の労働者のうち労働組合に「すぐにでも加入したい」としたのが7.2%、「機会があれば加入したい」が6.3%、「関心があり、加入を検討してもよい」が13.5%で、加入に前向きな回答は27.0%であった。30～40歳代に比べて20歳代は強い加入意向を示していたものの、単純に比較することはできないが、第1回調査では加入意向のある学生は約7割、第2回調査では「加入に前向き」な学生は約4割で、学生と組合未加入者の労働者との間にはギャップがある。このようなギャップが生まれる可能性として、就職してみたら組合を必要とするような職場ではなかったため加入意向が弱まった、加入意向があったが働きかけがなかったために加入意向が弱まった、現実の労働組合が学生時代にイメージしたものと異なっていた

ため加入意向が弱まったなどが考えられる。その原因についてさらなる検討が必要ではあるが、いずれにしてもこのような現実を組合は深刻に受け止める必要がある。

本報告書の随所で触れられているように、働きかけ方しだいで学生の労働組合に対する意識・イメージは大いに変わる可能性を秘めている。学生の意識・イメージが変われば、労働組合への加入意向は高まってくるだろう。第2回調査では、半数近くの学生が加入するかどうか分からないと回答しているが、メディアでの取り上げ方や学校教育における学習しだいでは、潜在的にはさらに多くの学生が「加入に前向き」に変わる可能性が示唆された。労働組合運動にとって期待のもてる結果であるといえるだろう。

最後に、当研究会の今後の研究課題について触れておく。今回の2回にわたる意識調査は、将来の労働組合運動を担うべき若者が、労働組合に対してどのような認識をもっているのかを把握する目的で実施した。とはいえ、この目的を達成することができたとはいえない。当研究会では、今後も調査を継続して学生アンケートを実施していく予定であるが、これだけでは若者の労働組合に対する認識をつかみ取るには不十分であると考えている。学生時代の労働組合に対する意識・イメージがそのまま就職後に反映されるとは限らず、働くようになると以前とは異なる意識・イメージをもつことが予想される。したがって、調査対象を学生以外にも広げること、こうした点を明らかにしていきたいと考えている。

<資料>単純集計結果・調査票

第1回調査単純集計

問1.「労働組合」とはどのような組織かを知っていますか？

	回答数	
知っている	157	25.7%
聞いたことはある	408	66.9%
知らない	43	7.0%
NA	2	0.3%
合計	610	100.0%

問2.「労働組合」をどこで知りましたか？

	回答数	
テレビ・ラジオのニュース等	382	68.1%
新聞・雑誌	189	33.7%
映画・テレビドラマ等	23	4.1%
漫画	9	1.6%
インターネット	51	9.1%
中学・高校の授業	172	30.7%
大学の授業	242	43.1%
家族・親戚から聞いた	90	16.0%
アルバイト先で聞いた	20	3.6%
その他	8	1.4%
合計	561	100.0%

問3.「労働組合」に対するあなたのイメージは？

A. ダサい

	回答数	
そう思う	6	1.0%
ややそう思う	11	1.8%
あまりそう思わない	105	17.2%
そう思わない	374	61.3%
分からない	83	13.6%
NA	31	5.1%
合計	610	100.0%

B. 怖い

	回答数	
そう思う	9	1.5%
ややそう思う	51	8.4%
あまりそう思わない	121	19.8%
そう思わない	328	53.8%
分からない	67	11.0%
NA	34	5.6%
合計	610	100.0%

C. 迷惑だ

	回答数	
そう思う	3	0.5%
ややそう思う	22	3.6%
あまりそう思わない	139	22.8%
そう思わない	331	54.3%
分からない	80	13.1%
NA	35	5.7%
合計	610	100.0%

D. 面倒くさそう

	回答数	
そう思う	60	9.8%
ややそう思う	155	25.4%
あまりそう思わない	175	28.7%
そう思わない	118	19.3%
分からない	70	11.5%
NA	32	5.2%
合計	610	100.0%

E. 頼もしい

	回答数	
そう思う	56	9.2%
ややそう思う	165	27.0%
あまりそう思わない	191	31.3%
そう思わない	53	8.7%
分からない	107	17.5%
NA	38	6.2%
合計	610	100.0%

F. 必要だ

	回答数	
そう思う	170	27.9%
ややそう思う	179	29.3%
あまりそう思わない	103	16.9%
そう思わない	28	4.6%
分からない	97	15.9%
NA	33	5.4%
合計	610	100.0%

G. 役に立つ

	回答数	
そう思う	78	12.8%
ややそう思う	196	32.1%
あまりそう思わない	144	23.6%
そう思わない	32	5.2%
分からない	127	20.8%
NA	33	5.4%
合計	610	100.0%

大学生の労働組合観について—アンケート調査から見えるもの—

H. 自分には関係ない

	回答数	
そう思う	21	3.4%
ややそう思う	64	10.5%
あまりそう思わない	184	30.2%
そう思わない	205	33.6%
分からない	101	16.6%
NA	35	5.7%
合計	610	100.0%

問4. 就職後に「労働組合」へ加入したいと思いますか？

	回答数	
ぜひ加入したい	78	12.8%
必要に迫られたら加入したい	335	54.9%
できれば加入したくない	75	12.3%
絶対に加入したくない	1	0.2%
その他	92	15.1%
NA	29	4.8%
合計	610	100.0%

学年

	回答数	
1年	188	30.8%
2年	314	51.5%
3年	70	11.5%
4年	32	5.2%
NA	6	1.0%
合計	610	100.0%

性別

	回答数	
男	198	32.5%
女	408	66.9%
NA	4	0.7%
合計	610	100.0%

学部

	回答数	
医療・福祉	373	61.1%
家政	58	9.5%
教養	41	6.7%
社会科学	138	22.6%
合計	610	100.0%

第2回調査単純集計

問1. 「労働組合」とはどのような組織かを知っていますか？

	回答数	
知っている	136	22.9%
聞いたことはある	402	67.8%
知らない	55	9.3%
合計	593	100.0%

問2. 「労働組合」をどこで知りましたか？

	回答数	
テレビ・ラジオのニュース等	305	58.0%
新聞・雑誌	155	29.5%
映画・テレビドラマ等	5	1.0%
漫画	7	1.3%
インターネット	18	3.4%
中学・高校の授業	327	62.2%
大学の授業	10	1.9%
家族・親戚から聞いた	52	9.9%
アルバイト先で聞いた	7	1.3%
身近に組合に加入している人がある	14	2.7%
組合の宣伝や活動を見た	33	6.3%
その他	10	1.9%
合計	526	100.0%

問3. 「労働組合」に対するあなたのイメージは？

A. ダサい

	回答数	
そう思う	5	0.8%
ややそう思う	21	3.5%
あまりそう思わない	176	29.7%
そう思わない	296	49.9%
分からない	91	15.3%
NA	4	0.7%
合計	593	100.0%

B. 怖い

	回答数	
そう思う	7	1.2%
ややそう思う	73	12.3%
あまりそう思わない	165	27.8%
そう思わない	269	45.4%
分からない	75	12.6%
NA	4	0.7%
合計	593	100.0%

C. 迷惑だ

	回答数	
そう思う	4	0.7%
ややそう思う	34	5.7%
あまりそう思わない	168	28.3%
そう思わない	292	49.2%
分からない	90	15.2%
NA	5	0.8%
合計	593	100.0%

D. 面倒くさそう

	回答数	
そう思う	60	10.1%
ややそう思う	211	35.6%
あまりそう思わない	131	22.1%
そう思わない	109	18.4%
分からない	78	13.2%
NA	4	0.7%
合計	593	100.0%

E. 頼もしい

	回答数	
そう思う	47	7.9%
ややそう思う	186	31.4%
あまりそう思わない	175	29.5%
そう思わない	54	9.1%
分からない	127	21.4%
NA	4	0.7%
合計	593	100.0%

F. 必要だ

	回答数	
そう思う	164	27.7%
ややそう思う	242	40.8%
あまりそう思わない	55	9.3%
そう思わない	15	2.5%
分からない	113	19.1%
NA	4	0.7%
合計	593	100.0%

G. 役に立つ

	回答数	
そう思う	82	13.8%
ややそう思う	235	39.6%
あまりそう思わない	106	17.9%
そう思わない	24	4.0%
分からない	142	23.9%
NA	4	0.7%
合計	593	100.0%

H. 自分には関係ない

	回答数	
そう思う	47	7.9%
ややそう思う	145	24.5%
あまりそう思わない	175	29.5%
そう思わない	113	19.1%
分からない	109	18.4%
NA	4	0.7%
合計	593	100.0%

問4. 就職後に「労働組合」へ加入したいと思いますか？

	回答数	
ぜひ加入したい	19	3.2%
勧められたら加入したい	68	11.5%
必要に迫られたら加入したい	134	22.6%
できれば加入したくない	59	9.9%
絶対に加入したくない	41	6.9%
分からない	268	45.2%
NA	4	0.7%
合計	593	100.0%

学年

	回答数	
1年	559	94.3%
NA	34	5.7%
合計	593	100.0%

性別

	回答数	
男	251	42.3%
女	308	51.9%
NA	34	5.7%
合計	593	100.0%

アルバイト等の経験はありますか

	回答数	
なし	253	42.7%
あり	305	51.4%
NA	35	5.9%
合計	593	100.0%

大学生の労働組合観について—アンケート調査から見えるもの—

<第1回調査票>

労働組合に関するアンケート

問1. 「労働組合」とはどのような組織かを知っていますか？（一つだけ）

- ① 知っている ② 聞いたことはある ③ 知らない

※問1で①または②を選んだ方にお聞きします（③を選んだ方は問4へ）

問2. 「労働組合」をどこで知りましたか？（いくつでも）

- ① テレビ・ラジオのニュース等 ② 新聞・雑誌
③ 映画・テレビドラマ等 ④ 漫画
⑤ インターネット ⑥ 中学・高校の授業（科目： ）
⑦ 大学の授業 （科目： ） ⑧ 家族・親戚から聞いた
⑨ アルバイト先で聞いた
⑩ その他（具体的に： ）

問3. 「労働組合」に対するあなたのイメージは？

	そう思う		そう思わない 分からない		
	—————				
A. ダサい	①	②	③	④	⑤
B. 怖い	①	②	③	④	⑤
C. 迷惑だ	①	②	③	④	⑤
D. 面倒くさそう	①	②	③	④	⑤
E. 頼もしい	①	②	③	④	⑤
F. 必要だ	①	②	③	④	⑤
G. 役に立つ	①	②	③	④	⑤
H. 自分には関係ない	①	②	③	④	⑤

問4. 就職後に「労働組合」へ加入したいと思いますか？

- ① ぜひ加入したい ② 必要に迫られたら加入したい
③ できれば加入したくない ④ 絶対に加入したくない
⑤ その他（具体的に： ）

問4を回答した理由について説明して下さい

学部：	学科：
学年：	性別：

<第2回調査票>

労働組合に関するアンケート

問1.「労働組合」とはどのような組織かを知っていますか？（一つだけ）

- ① 知っている ② 聞いたことはある ③ 知らない

※問1で①または②を選んだ方にお聞きます（③を選んだ方は問3へ）

問2.「労働組合」をどこで知りましたか？（いくつでも）

- ① テレビ・ラジオのニュース等 ② 新聞・雑誌
③ 映画・テレビドラマ（タイトル： ） ④ 漫画（タイトル： ）
⑤ インターネット ⑥ 中学・高校の授業（科目： ）
⑦ 大学の授業 （科目： ） ⑧ 家族・親戚から聞いた
⑨ アルバイト先で聞いた ⑩ 身近に労働組合に加入している人がいる
⑪ 労働組合の宣伝や行動を見た ⑫ その他（具体的に： ）

問3.「労働組合」に対するあなたのイメージは？（それぞれ一つ）

	そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	分からない
A. ダサい	①	②	③	④	⑤
B. 怖い	①	②	③	④	⑤
C. 迷惑だ	①	②	③	④	⑤
D. 面倒くさそう	①	②	③	④	⑤
E. 頼もしい	①	②	③	④	⑤
F. 必要だ	①	②	③	④	⑤
G. 役に立つ	①	②	③	④	⑤
H. 自分には関係ない	①	②	③	④	⑤

問4. 就職後に「労働組合」へ加入したいと思いますか？（一つだけ）

- ① ぜひ加入したい ② 勧められたら加入したい
③ 必要に迫られたら加入したい ④ できれば加入したくない
⑤ 絶対に加入したくない ⑥ 分からない

問4を回答した理由について説明して下さい

性 別： ① 女 性 ② 男 性

アルバイト等の経験： なし ・ あり（職種： ）